

工匠ナルト將タ官吏ナルト商人ナルトヲ論ゼザルナリ是ヲ以テ課税ノ基礎ハ彼消費税若クハ分頭税ノ如ク極メテ廣大ナリト云フベシ是レ所得税ノ巨額ナル收入ヲ國庫ニ供ストナス所以ノ一ナリ、

(二) 屈伸力ヲ有スルコト、

所得税ハ人民ノ所得ニ課スル所ノ租税ナリ是ヲ以テ各人ノ所得從ツテ大ナレバ從ツテ税額ハ多カラザルヲ得ズ是レ地租ノ如ク一定不動ノ純收入ニ課スル租税ト同日ノ論ニ非ズ又タ分頭税ノ如ク單ニ人口ノ増減ニヨリテ屈伸スル租税ノ比ニ非ザル所ナリ、

一、所得税ハ徵收手段ニ煩雜ノ勞ヲ要セズ、

地租ノ如ク永年月ヲ費ヤシテ臺帳ヲ調整シ若クハ家屋税ノ如ク家實賣買價額ヲ調査シテ而シテ始メテ課税スルノ類ト異ナリ所得税ハ人民ノ申告ヲ基トシ調査委員ノ詮衡ニヨリ各人ノ所得ニ課スルニ止マルヲ以テ此等ノ徵課方法ニ比スルハ遙カニ簡便ナリト謂ハザルベカラズ且ツ人民ニ在テモ特種ノ歳入ヲ彙類スルノ煩ナク一切ノ總所得ヲ算出シテ之レヲ申告セバ則チ

可ナルヲ以テ所得税ハ双互ニ執リテ繁褥ノ手數ヲ省減スルノ利便アリ從ツテ政府モ許多ノ徵收費ヲ要セザルニ至ル、

且ツ所得税ハ各人ノ財力ニ比例スルニ止マラズ租税ノ偏輕偏重ヲ均正セシムルノ効益アリト謂ハザルベカラズ例セバ地租ハ獨リ農民ノ負擔スル所營業税ハ單ニ營業者ノ負擔スル所ニ止マル是ヲ以テ一般人民ニ賦課スル租税ナキトハ其間租税ノ負擔ヲ免レ全ク國民トシテ納税ノ義務ヲ盡クサマル者ヲ生ズルニ至ルベシ假リニ我國ニ於テ諸種ノ租税アルモ所得税ハ未ダ賦課セラレザルモノナリトセヨ然ルハ勤勞^{プロダクション}ヲ以テ衣食スル者ハ全ク納税ノ義務ヲ免ルニ至ルベキナラズヤ素ヨリ此徒ガ消費税ヲ負擔シ若クハ租税負擔ノ轉嫁ニヨリテ實際ノ負税者タルコトハ有リ得ベシ然レモ是レ特ニ勤勞ヲ以テ衣食スル人民ニノミ起ルノ現象ニ非ザルナリ納税ノ義務ハ本來國民ノ義務ナリ又タ租税ハ社會ノ或ル階級ニノミ課セシメズ一般ニ亘ラザルベカラズトハ既ニ總論ノ始メニ於テ曾テ論述セシ原則ナリトス然ラバ士農工商ヲ通シテ一般ニ賦課セラレ、税法ヲ設クルハ誠ニ緊切ナル財政上ノ任務ナリト謂ハザルベカラザルナ

リ、蓋シ所得稅ノ必要ナル亦タ争フベカラザルモノアルヲ知ルベキニ非ズヤ、然レモ一得アル所エハ一失ノ伴フハ社會ノ常觀一利ノ存ズル所ニ一害ノ隨フハ誠ニ事物ノ通態ナリ、是ヲ以テ所得稅ノ輝タル方面ノ背後ニハ又タ暗黒ナル側面アルヲ免ルベカラズ、所得稅ハ實ニ左ノ缺點ヲ有セザルヲ得ザルナリ、

一、所得稅ハ到底公平ニ施行スルヲ得ズ、

其理由次ノ如シ、

(一) 所得稅ハ各人ノ申告若クハ政府ノ調査ヲ以テ標準トセザルベカラズ、而シテ各人が果ソ眞正ナル申告ヲナスベキヤハ頗ル疑問ニ屬ス、是ヲ以テ政府ニ在リテ自カラ調査ノ任ニ衝ラントセバ、到底精密ナル結果ヲ得ルコト能ハズ、結局嚴確ヲ保タントセバ監督ヲ峻酷ニスルガ爲メニ費用ヲ増加シ、寛大ヲ以テ之レニ對セントセバ、狡猾ノ徒ハ、通稅ヲ計リ獨リ正直ナル者ノミ多ク課稅ノ負擔ヲ受クルニ至ル、且ツ人民ノ階級中ニハ歲入不定ノ者甚ダ多シ而シテ之等ノ人民ハ必シモ中等以下ノ細民ニ非ズ、又タ必シモ好ンデ脫稅ヲ計ラント欲スル者ニ非ザルナリ、然レモ其收入ハ常ニ未確定ナルヲ以テ租稅ヲ

納ムルノ標準ヲ求ムルヲ能ハズ爲メニ精密ニ其所得ニ徵課スルヲ得ザルノ結果ヲ生ズルニ至ルベシ、例セバ著述ヲ以テ業トスル者ノ如キ或ハ醫師辯護士ノ如キ其甚シキハ投機商ノ如キハ此類ナリトス、

(二) 所得稅ハ到底公平ニ賦課セラレ、^一能ハザル者トス

所得稅ヲ公平ニ賦課セシメントセバ、人民ノ總歲入中ヨリ其生計ニ必要ナル經費ヲ差引キタル殘餘ニ課セシメザル可ラズ、然レモ如此キ生計費ハ各人ニヨリテ甚ダ異同アル所ナリ、例セバ英國ノ所得稅法ニハ百二十磅ノ生計費ヲ控除シタル殘餘ノ所得ニ課スルコトセリ、然レモ百二十磅トハ果シテ何ヲ以テ標準トセシカ、家族ヲ多ク有スル者ト其否ヲザル者トノ間ニ同一ノ金額ヲ以テ生計ノ必要費額ト定メシハ如何ナル理由アルニ依レル乎、若一度ヒ思ヒテ此ニ效タセバ所得稅ハ到底公平ニ賦課セラレ、^一能ハザルヲ知ルベシ、

(三) 所得稅ハ課稅ノ重複ヲ生ズルノ虞レナシトセズ、

今日諸國ニ行ハル、所得稅ハ其實必シモ本來租稅ノ偏重偏輕ヲ均正センガ爲メニ出デタルニ非ズ、是ヲ以テ所得稅ノ賦課動々モスレバ一度ヒ課稅セラ

レタル租税ニ再課スルノ結果ヲ見ルニ至レルハ怪ムニ足ラザルナリ若シ又
 タ假リニ補償税(偏重偏輕ヲ匡正スルノ目的ニ課セラレタル租税ヲイフ)ノ目
 的ヲ以テ課スルニセヨ、嚴密ニ各人ノ歳入ヲ調査スル能ハザルヲ以テ實際重
 税ヲ課スルノ結果ナシト必スベカラザルナリ、例セバ爰ニ利息税ヲ課セラレ
 タル人民アリトセヨ、而シテ政府ハ能ク其人民ノ總收入ヨリ綿密ニ一旦賦課
 シタル租税ノ負擔ヲ除外シ更ニ補償税トシテ所得税ノ徵課ヲ試ムル能ハザ
 ルヲ以テ、勢ヒ實際ニ於テ一度ビ課シタル所得ニ再ビ課税スルノ弊ヲ免ルヲ
 得ザルベシ、

(四) 所得税ハ常ニ富者ノ負擔トナル

既ニ租税ノ一般平等ニ行ル、ヲ以テ其理想ナリトセバ、細民ノ財力ニモ比例
 シテ課税スルヲ得ルコソ最良ノ租税ナリト云フベク、然レモ直税ハ一時ニ
 納附セシムルモノナルヲ以テ假令細民ノ財力ニ比例スルヲ得トスルモ所得
 税ハ既ニ其性質ニ於テ細民ニハ課スルコトヲ得ザルモノト云フベシ、是レ貧
 富ノ懸隔ヲ匡正スル社會政策ノ問題ト全ク別個ノ事タリ、何者茲ニ所得税ハ

細民ニ課セシムルヲ得ズトイフハ、細民ノ資力ガ之レニ堪ユル能ハザルガ爲
 メナリト謂ヘルニ非ズシテ、直税ノ性質トシテ一時ニ納附セシムルトガ困難
 ナルニ由ルガ故ナリ、果シテ然ラバ、所得税ハ其直税ナル性質ヨリ一般ニ賦課
 スルヲ得ズ大多數ノ人民(下層ノ人民)ニ向テ特ニ免税ノ特權ヲ賦與スルノ觀
 アリト云フベキニ非ズヤ、是レ此租税ノ公平ニ行ハレザルヲ證スル第四ノ點
 ナリトス、

一、所得税ハ人民ヲシテ詐偽隱蔽ヲ増サシム、

是レ既ニ前述セシ所ナリ、蓋シ比例税ト累進税トハ何レカ最モ此ノ弊害ヲ有
 スル、ヤハ姑ラク置キ所得税ガ此傾向ヲ有スルハ争フベカラザル一個ノ缺點
 ト謂フベキナリ、

第二項 所得税ノ賦課ニ關スル注意

所得税ノ性質ニツキテハ既ニ以上陳フル所ノ如シ、而シテ其缺點ニツキテモ吾
 人ハ前項ニ於テ略々之レヲ掲載シタリ然レドモ所得税ハ諸地ノ租税ニ比シテ
 其税ナルハ殆ンド何人モ疑フベカラザル所ナルヲ以テ、其缺點アルノ故ニ此佳

好ナル税制ヲ廢スベキニ非ザルナリ、人或ハ所得税ハ細民ニ課スルヲ得ザルガ爲メニ一般ニ漏及スル能ハザル租税ナリト雖、是レ全ク所得税ノ公平ナラザルヲ證白スルモノニ非ズシテ、寧ロ見地ヲ換ヘテ仔細ニ觀察スルトキハ細民ニ課スルヲ得ザルノ缺點ハ却テ國家ノ經濟上當サニ希望スベキ長所ナルヤモ亦知ルベカラザルナリ、

姑ラク單一所得税制ハ之レヲ措キテ論ゼズ、苟モ既ニ複税制度ヲ必要トスル今日ニ在リテハ間税ハ富者ト貧者トノ間ニ同等ニ賦課セラル、ヲ以テ、若シ貧者ニモ所得税ヲ課スベシトスルハ、勢ヒ間税ノ偏重ヲ補フコト能ハザルニ至ルベシ、是ヲ以テ諸國ノ所得税ハ必ズ一定ノ階級以上ニ在ル人民ニ課セシムルヲ以テ例トセリ、

蓋シ細民ノ所得ニ課税ストセバ、國家ハ到底其調査ニ堪ヘザルベキト其申告ニ信ヲ措クヲ能ハザルベキニヨリ、既ニ此點ニ於テモ所得税ヲ細民ニ免除スルノ必要アルベキモノトス、然レモ其所謂細民トハ如何ナル程度ノ人民ヲ稱スルモノナルカ、吾所得税法ニ憑レバ三百圓以下ノ歳入ヲ有スル者英國ノ制ニ依レバ

百磅以下ノ所得アル者普國ノ規定ニ據レバ普通三キマルク以下ノ收入アル者即チ是レナリ、然レモ是素ヨリ立法者ノ臆測ニ屬シ、必シモ満足ナル標準ニ非ザルベシ、且ツ又タ國情ヲ異ニスルニ從ヒ人民ノ富ノ程度ヲ異ニスルヲ以テ諸國ノ實例ニ徵シテ如此キ標準ヲ定メ能ハザルハ殆ソト言フ俟タズ、然ラバ立法者ハ先ヅ如何ナル事情ヲ參酌シテ課税者ト免稅者ト區別スベキカ、吾人ヲ以テ看ルルハ如此キ事情ハ大約ソ六箇アリ、

一、物價

物價ノ低廉ナルヤ高直ナルヤ換言セバ、貨幣購買力ノ大小ハ大ニ所得ニ課税スルニ方リテ深ク考慮ヲ效タサルベカラザル關係ヲ有ス、例セバ甲國ノ一弗ハ其購買力乙國ノ二弗ニ匹敵ストセバ甲國ニアリテ所得税ヲ課スル標準ハ遙カニ乙國ニ於ケル所得額ヨリモ低カラシムルヲ得レバナリ、

一、富ノ分配

富ノ分配ハ國ニヨリテ大ニ異ル、或ハ人民階級ノ一局部ニ財產蟬聚シ貧富甚シク懸隔スル國アルベク、或ハ財産ノ分配全般ニ普及シ貧富ノ懸隔甚ダ輕小

ナルノ國情モアルベシ立法者宜ク之等ノ國情ヲ鑑察シ以テ課稅標準ノ高低ヲ定ムベキナリ即チ後者ノ場合ニ在リテハ免稅點ヲ低クスルニ非ザレバ國庫ノ收入ハ巨大ナルヲ得ズ、

一、所得稅以外ニ於ケル負擔ノ輕重

是レ亦タ殆ンド言フヲ要セザル所ナルベシ、

一、人民ノ詐偽隱蔽

納稅義務ニ對スル觀念ノ發達セル國民ト否ラザルモノトアルハ教育制度其他諸般ノ關係ヨリ詢ニ免ルベカラザル所ナリトス例セバ古來自由民權ノ思想ニ富メル國ニアリテハ財産ニ對シテ不安ノ念ヲ抱クヲナシ然レモ永ク封建政治ノ惡風ニ慣熟セル國民ニ在リテハ暴政ニ對スル一種ノ隋力ハ尙ホ今日ニ至ルモ滅セズ動々モスレバ公共ノ觀念ニ疎ク頻リニ財産ヲ隱蔽セントスルノ形勢アリ吾國民ノ如キ多少然ラズトセザルナリ是ヲ以テ立法者ハ豫メ此點ニ注意スベク若シ果シテ隱蔽若クハ申告ヲ詐ルコト多キ國民ナリトセバ課稅者ノ標準ヲ幾分カ低下セシムルヲ以テ至當トス是レ三百圓以下ノ收

入ヲ有スル者ニ實際三百圓以上ノ所得ヲ有スル者アルヲ豫期シテ可ナルガ爲メナリ、

一、國庫收入ノ大小

國民中富者ニ屬スル者ハ寧ロ下層ノ人民ニ比シテ少數ナルヲ以テ富者ノ歲入ニ重稅ヲ課スルヨリハ被稅者ノ標準ヲ低下シ租稅ヲ輕課スルヲ以テ得策ナリトスベキ場合アルベシ抑モ租稅ヲ課スルハ國家ノ支出ヲ供給スルニ在ルヲ以テ漫リニ被稅者ノ便益ノミヲ計ルベキニ非ズ須ラク其要スル收入ノ大小ニ從ツテ標準ヲ定ムベキナリ、

一、所得ノ種類

所得稅ヲシテ公平ニ賦課セシメント欲セバ各人ノ所得ニツキテ左ノ注意ヲ要ス、

(一) 生計費ノ控除

所得ハ本來私人ガ生計費ヲ支ヘ貯蓄ヲナシ時ニ或ハ驕奢ヲ行フ淵源タリ而シテ生計費ノ如キハ何人モ必要缺クベカラザルノ費用ナルモノヲ以テ課稅

ノ基礎茲ニ及テハ決シテ可ナリトスベカラズ英國ニ在リテハ其一部ノ人民ニ對シ特ニ法定ノ生計費ヲ控除シタル餘分ニ課税スルガ如キ蓋シ其制ナリト謂フベシ然レモ既ニ一部ノ人民ニ生計費ヲ控除スルノ必要アリトセバ汎ロク全般ニ亘リ等シク生計ニ要スル金額ヲ控除スルコソ至當ナレ即チ所得税ノ所謂所得トハ生計費ヲ控除シタル以外ノ歲入ヲ意味スベキモノナリ、

(二) 所得ノ性質

若シ所得税ヲシテ成ルベク完全ナル其税タラシメント欲セバ各人ノ有スル不動産若クハ流動資本ヨリ生ズル所得ト一身ヨリ生ズル收入例セバ官吏ニ對スル俸給營業所得ノ如キ類トテ區別スルコト至當トス何者前者ヨリ生ズル所得ハ其性質永遠ニ亘リテ確固ナレモ後者ヨリ生ズル收入ノ如キハ其身分若クハ職業ヲ失フト共ニ消滅スベキヲ以テ從ツテ收入ノ基礎安固ナリト謂フベカラズ乃ハチ後者ノ收入ハ前者ノ收入ヨリモ一層貯蓄ニ供スルノ必要アルモノト謂ハザルベカラザルナリ是ヲ以テ等シク歲入ノ金額ハ三百圓ナリトイフモ前者ノ三百圓ト後者ノ三百圓トハ自ラ徑庭ナクソバアラズ是

レ實ニ明白ナルコトナリ然ラバ單ニ同一ノ所得タルヲ以テ同一ノ租税ヲ負擔セシムルハ實際不公平ノ結果アルヲ免レザルベシ故ニ若シ勤勞ヲ以テ衣食スルノ徒ニ對シ其三百圓以上ノ所得ニ課税ストセバ不動産又ハ流動資本ノ利息ニヨリテ生活スルノ輩ニ向テハ宜ロシク尙ホ所得額ノ額面ヲ低下セシムルモ可ナルベキモノトス其兩者ノ收入ヲ兼ヌルノ人民ニ至リテハ素ヨリ各其收入ヲ區別シ以テ交互ノ間ニ斟酌ヲ試ムベキモノナリ、

以上ハ課税スベキ所得ノ標準ヲ定ムルニ方リテ立法者ノ參考スベキ注意ノ大要ナリ以下少シク所得税ノ効益ニツキテ補フ所アラシ、

第三項 所得税ノ税制上ニ於ケル地位、

所得税ノ効益ニツキテハ前項其他總論ニ於テ數次吾人ノ陳辯シタル所ナルヲ以テ敢テ再ビ爰ニ重複ノ説明ヲ與ハザルベシ抑モ所得税ハ其起源ヲ分頭税ニ發シタルモノニシテ其行ハレタルハ極メテ近世ノ事タリ然レモ其性質ノ良好ナル能ク一般ニ普及シ公平ニ賦課セラル、ヲ以テ諸國爭ツテ此税法ヲ布クニ至レリ然レモ既ニ諸多ノ直税間税ヲ有スル現今ノ財政ニ在リテハ所得税ハ之

レテ補償税トスルヲ以テ尤モ適當トナスモノナリ、是レ既ニ前項ニ於テ吾人ノ少シク説明ヲ加ヘ置キタル所ニシテ若シ補償税ノ目的ヲ以テ此税目ヲ存ゼシムルニ非ザレバ、各人ノ財産ハ遂ニ重複ノ課税ヲ蒙ルニ至ルベキナリ、然レモ所得税ノ効益ハ獨リ其補償税タルニ止マラズ、更ラニ填補税若クハ補充税タルニ於テ尤モ顯著ナリト云ベシ、抑モ茲ニ填補税又ハ補充税ト稱スルハ國家ノ非常支出ヲ補フノ要ニ衝ルベキ財源ヲ稱スルモノニシテ、普通國債ヲ起シ若クハ官有財産ノ拂下ニ代フベキ臨時緊急ノ收入ヲ云フ、而シテ所得税ハ補充税トシテ尤モ適當セリ、其故何ゾヤ、所得税ハ課税ノ基礎尤モ大ナレバナリ、所得税ハ一般普通ニ亘リ人民ノ一局部ニ偏重ナルノ嫌ヒアルモノニ非ザレバナリ、所得税ハ課税ノ基礎汎ク一般ニ普及スルヲ以テ各人ノ負擔ハ輕微ニシテ而カモ國庫ノ收入額ハ巨大ナルヲ得レバナリ、是レ所得税ガ他ノ租税ニ勝ル重要ノ點ナリトス、故ニ現今ノ税制ニ於テハ一方ニ補償税トシテ租税ノ不平均ヲ匡正セシメ、他方ニ國家非常ノ事變ニ際シ國民奉公ノ心ニ訴ベ税率ヲ高メテ非常經費ノ財源ニ充ツベキ一個ノ補充税トセバ、所得税ハ實ニ諸多ノ租税中ニアリテ尤モ顯

著ナル効用ヲナスモノト謂フベキナリ、

第七款 營業税

第一項 汎論

營業税トハ商工ヲ以テ業トスル者ニ對シ其商業若クハ工業ヨリ生ズル所得ニ賦課スル租税ヲ云フ、是ヲ以テ勤勞ニヨリテ衣食スル者ハ營業税ノ納税者ニ非ザルハ勿論、株券公債證書其他貸金證書ノ所有者ノ如キモ之レガ取引ヲ業トスル者ニ非ザレバ營業税ヲ課セラル、コナシ、加之營業税ハ商工業ノ所得ニ課スル租税ナルヲ以テ彼耕作ヲ以テ業トスル農民ハ自ラ課税ノ範圍外ニ在ルモノトス、今マ試ミニ營業税ノ賦課ヲ免レザル人民ノ階級ヲ示サバ、則チ左ノ如クナルベシ、

- 一、商人(物品ニ加工セズシテ之レヲ生産者ヨリ生産者又ハ消費者ニ移轉スルコトヲ業トスル者)
- 一、製造人(物品ノ形質ヲ變シテ之レヲ他ノ生産者又ハ消費者ニ移轉スルコトヲ業トスル者)

一、自己ノ名ヲ以テ勞力ヲ供スル者徒弟ヲシテ他人ノ工作ニ從事セシムル者
 タイフ、但シ其徒弟ハ營業者ニ非ザルト勿論ナリ、

一、銀行業、投機業、娛樂遊場ニ關スル取引等ヲ業トスル者、
 是レナリ、而シテ如此キ階級ニ於ケル人民ノ其業ヨリ生ズル收入ヲ營業所得ト
 稱ス、而シテ之ニ課スル租稅ヲ營業稅トハイフナリ、故ニ營業所得トハ營業者ノ
 勞力ニ對スル報酬、營業ノ爲メニ供スル資本ノ利子及ビ營業ヨリ生ズル危險ノ
 代價、以上三種ノ要素ヲ含蓄スルモノト謂フベシ、

抑モ農民ガ地租ヲ負擔シ營業者ガ營業稅ヲ負擔スルハ、租稅公正ノ原則上避ク
 ベカラサル所ニシテ、其一ヲ存シテ他ヲ廢スベキニ非ザルハ詢ニ明白ナリトス、
 然レモ營業所得ト稱スル者ハ一定確實ノ性質ヲ有セサルノミナラズ、國家ガ其
 所得額ヲ調査スルト甚ダ困難アルヲ免レザルヲ以テ營業稅ノ賦課動々モスレ
 ベ各人ノ財力ニ比例セザルノ結果ヲ生ズルハ實ニ止ムテ得ザルトトス、

現今一般ニ行ハル、營業稅ノ賦課法ハ普通立法者ノ推測ニ出ゾルモノニシテ、
 敢テ營業者ノ所得ヲ調査シ之レヲ基礎トスルニ非ザルモノトス、而シテ此推測

ヲ立ツルニ大約ソ守ルベキ數箇ノ標準アリ、

一、營業ノ種類

營業ノ種類トイフハ廣ク其營業ノ性質タイフナリ、例セバ商業工業ハ營業種
 類ノ大別ナリ、卸賣商小賣商露店ニヨリテ營業スルモノ、如キ、大仕掛ノ製造
 手工藝ノ如キハ更ニ區分セラレタル營業ノ類別ナリ、

一、營業規模ノ大小

例セバ營業所ノ大小傭人ノ多少据付機具ノ價格等ヲ謂フ、即チ營業所大ナル
 者ニハ其小ナル者ヨリモ營業所得多カルベキ推測ヲ立ツルヲ得ベシ、

一、營業所々在地ノ景况

營業所々在地ノ繁榮ナルモノハ假令其規模ハ小ナリトスルモ所得ハ必ズ繁
 榮ナラザル地ニ於テ大ナル營業所ヲ有スルモノニ比シテ勝レルナルベシ、是
 レ立法者ガ豫メ營業地ノ形勢ヲ參考スベキ必要存ズル所以ナリ、
 以上三點ハ普露西ニ於ケル營業所得ノ標準ニ依リタルモノトス、國ニヨリテハ
 更ニ尙ホ諸種ノ點ヲ參考スルモノアルベシ、

抑モ如此キ不充ナル標準ヲ忍ンテ營業稅ヲ課スル所以ハ到底嚴密ナル調査ヲ行ヒ難キニ由ラズンバアラズ、殊ニ况ンヤ營業ニ在リテハ營業ノ秘密ヲ要スルモノアルガ爲メ各人ノ申告ニ據ルベカラザルハ必シモ智者ヲ俟テ始メテ知ルベキニ非ザルオヤ

第二項 營業稅ノ得失

既ニ農民ヲシテ地租ヲ負擔セシムル以上ハ營業稅ヲ商工業者ニ課スルハ當然ノ事理ニシテ又タ疑フベカラザレド、營業稅ニ隨伴スル利害得失ハ別ニ宜ロシク研究シ置カザルベカラズ、營業稅ハ先ヅ左ノ缺點ヲ有ス、

一、負擔ノ轉嫁甚シキコト、

地租ノ負擔ハ容易ニ第三者ニ移轉セザルニ反シテ、營業稅ノ負擔ハ數次意外ナル邊ニ轉嫁シ、結局納稅者ヲシテ負稅者タラシムルヲ能ザルニ至ル、蓋シ之レ營業稅ノ基本タル商工業ガ變動極マリナキノ性質アルニ由ル者ト謂フベシ、今試ミニ營業稅ノ負擔ガ第三者ニ移轉スル事情ノ主ナル者ヲ説明セン、

(一) 經濟社會ノ好景氣、

一般ニ經濟社會ノ活動ヲ呈シ物品ノ需用勞力ノ需用共ニ盛ンナルニ方リテハ、營業者ハ容易ニ其課稅ノ幾分ヲ代價ニ包含セシメ第三者ニ移轉スルヲ得ベシ、

(二) 保護政策ノ行

假令物價騰貴スルモ外國ノ競争品輸入セラル、其ハ納稅者ハ能ク租稅ヲ代價ニ包含セシムルコトヲ得ズ、是ヲ以テ勢ヒ自カラ負稅者タラザルベカラザレド、政府保護政策ヲ施行スルルハ之レニヨリテ外國競争品ヲ防クヲ以テ又タ物價ニ租稅ヲ包含セシメ之レヲ他人ニ移轉スルヲ得ベシ、但シ僻地ノ小賣商又ハ勞力ヲ供スルヲ以テ業トスル者ノ如キハ、外國ノ競争ヲ受クルト小ナルカ但シハ皆無ナルヲ以テ此法則ノ行ル、限リニ非ザルナリ、

是ニ由リテ之レヲ觀ルルハ營業稅ノ負擔ガ立法者ノ希望通りニ行ハル、ハ營業ノ率口困難ナルベキ時ナリト謂ハザルベカラズ、^實テ其負擔全ク第三者ニ歸スルガ如キ場合ニ在リテハ營業稅ハ殆ンド消費稅ト區別ナキニ至ルベキナリ、

一、營業稅ノ賦課公平ヲ得難キヲ、
 既ニ前述セルガ如ク營業稅ノ賦課ハ立法者ノ推測ニヨルノ他ニ良途ナキヲ
 以テ此租稅ガ到底公平ニ行レ難キハ明白ナリトス、現今諸國ノ法制ニテハ營
 業ノ種類大小ニヨリテ營業ニ等級ヲ附シ稅率ヲ異ニスレモ、其等級ノ標準ハ
 推定ノ結果ナレバ往々ニシテ下級ノ營業者ガ上級ノ營業者ヨリモ巨大ナル
 所得ヲ有セズトセザルナリ、

夫レ如此キ缺點アルニモ拘ハラズ、營業稅ハ租稅ヲシテ一般普及ナラシメンガ
 爲メニ之ヲ課セザルベカラズ、且ツ其性質タルヤ本來國庫ニ收入ヲ供給スル一
 大財源ナリト謂ハザルベカラザルナリ、蓋シ營業稅ハ屈伸力ヲ有スル點ニ於テ
 遙カニ地租家屋稅ニ優レルモノアリ、國富從ツテ大ナレバ營業所得モ從ツテ多
 カラザルヲ得ザレバナリ、

第三項 營業稅ト營業免許稅

營業免許稅トハ現時英國ニ行ハル、License、ノ義ニシテ營業稅トハ自ラ性質ヲ
 異ニスルモノアルヲ以テ、世人ノ混同ヲ避ケンガ爲メ、特ニ茲ニ一言ヲ附記セン

トス、

營業免許稅ハ一般營業ノ所得ニ對スル課稅ニ非ズ、特種ノ營業ナル行爲ニ課ス
 ルノ租稅ナリ、英國ニ在リテハ營業稅ハ汎ロク所得稅ノ中ニ合マル、モノニシ
 テ所謂營業稅ナルモノハ存在セズ、然レモ特殊ノ商工業ヲ營ムニ方リテ一定ノ
 免許料ヲ納メシムルヲ制トス、而シテ是レ即チライセンズナリ、如此クライセ
 ンスハ營業ノ免許料ニシテ開業ノ免許料ニ非ザルヲ以テ、苟モ營業ノ繼續期間
 ハ年々免許料ヲ拂ハザルベカラザルモノトス、故ニ實ハ營業稅ト甚ダ類似スト
 謂フベシ、

第八款 職給稅

第一項 職給稅

職給稅トハ勤勞ノ所得ニ課スル租稅ヲ謂フ、勤勞トハ精神上ノ勞働及普通ノ勞
 働(肉體上ノ力役)ヲ共稱スルモノニシテ、營業ノ如ク物質的勢力(例セバ物品ノ販
 賣製造ノ如キ)ニ關係ナキモノトス、如此勤勞給ヨリ生ズル所得ハ普通勞働者ノ
 賃銀、官吏ノ俸給、會社役員ノ給料、醫師辯護士ノ報酬ヲ云フモノナリ、

既ニ地租アリ家屋税アリ又營業税アリテ而シテ勤勞ニ課スル租税ナシトセバ勤勞ニ依リテ衣食スル者ハ免税ノ特權ヲ得タル者ト云フベキガ故ニ租税ノ一般的ナルヲ要ストノ原則ヨリシテ到底課税ヲ免ルベカラザルモノトス然レドモ一般所得税法ノ施行セラル、國ニアリテハ特ニ職給税ヲ課スルノ必要ナク又タ勞働者ノ如キ間接ニ富者ト共ニ消費税ヲ負擔スルガ故ニ假令勞働者ノ賃銀ニハ所得稅ヲ課セザル國ニ在リテモ職給税ノ賦課ヲ免除スルハ正ニ相當ノ事ト謂ハズンバアラザルナリ、

夫レ如此ク職給税ノ必要ハ微弱ナルニモ拘ハラズ姑ラク其一般ノ性質ト得失トヲ研究シ置カントス、

勤勞ノ所得ハ之レヲ營業ノ所得ニ比較スルハ確實ニシテ且ツ調査ニ簡便ナリ加之國事漸ク多端ナルニ從ヒ官私ノ吏員ヲ要スル利益々大ニ從ツテ吏員ノ給料ノ如キモ増加スルモノアルヲ以テ職給税ハ又タ屈伸力ニ富ムモノト謂ハズンバアラザルナリ但シ醫師辯護士其他收入ノ確定セザルモノハ調査モ簡便ナルヲ得ザルベシト雖之レガ爲メニ特ニ之等ノ勤勞ニ對シテ免税ノ特權ヲ與

フベキニ非ズ且ツ又タ醫師ノ如キ辯護士ノ如キハ隱蔽ニ巧ミナルヲ得ベキモ亦タ翻リテ考フルハ多ク外觀ヲ飾ル職業ナルヲ以テ必シモ常ニ課税ノ結果僅小ナル收入ニ止ルベキモノニ非ズ是ニ由リテ之ヲ觀レバ職給税ハ一個良好ナル租税ト稱スルヲ得ベキモノトス、

第二項 官吏ノ俸給ニ課税スルノ當否

公債證書ノ利息ニ課税スルヲ不當ナリトスル者ハ官吏ノ俸給ニ職給税ヲ課スルノ非ナルヲ主張ス是レ論理上自ラ然ラザルヲ得ザル所ナルベシ此一派ノ論者ガ官吏ニ職給税ヲ課スルヲ批難スルノ語ニ曰ク

國家ハ官吏ノ勤勞ニ酬イフガ爲メ報酬ヲ給スルモノニシテ若シ課税ヲ容ルルノ餘地アリトセバ初メヨリ其税額ヲ引キ去リタル俸給ヲ與フルニ若カザルベシ況ンヤ一タビ與ヘテ再ビ租税ヲ以テ之レヲ回收スルガ如キハ恰カモ藥ヲ投ヲ然ル後ニ毒ヲ服セシムルニ似タルモノアルオヤ蓋シ俸給ノ課税ハ國家ノ威嚴ヲ損傷スルモノト謂フベキナリ、

ト此說ハ職給税ハ租税ノ一般普及ヲ要スル原則ニ適合ストノ前提ヲ承認スル

モ尙ホ初メヨリ税額ヲ引キ去リタル俸給ヲ與フルノ賢ナルニ若カザルコト主
張スルモノニシテ、多少其謂フ所ニ一理ナシトセズ、然レドモ税額ノ問題ハ官吏
ニ俸給ヲ與フル當時ニ於テ既ニ決定セラレタルモノト云フベカラズ、或ハ國庫
ノ必要上時ニ税率ヲ増加スルノ場合ヲ生ズベク、而シテ如此キニ際シテハ更ニ
課税スルカ否ラザレバ更ニ俸給ヲ引キ下ゲザルヲ得ザルベシ、又タ實際ノ上ヨ
リイフモ俸給ノ小額ナルヨリハ假令課税セラル、モ尙ホ俸額ノ大ナルヲ喜ブ
ハ寧ロ人生ノ常情ナリト謂フベシ、且ツ此說ハ徒ラニ課税ノ名義ヲ嫌フモノニ
シテ、若シ果シテ論者ノ言ヘル如ク初メヨリ俸給ヲ引キ下ゲ置クトセバ、是レ實
質ハ少シモ課税ト異ルコトナキモノタリ、况ンヤ如此キ見識ニ類スル手段ヲ行フ
ニ方リテハ、勢ヒ官吏ノ俸給増加ニ對スル運動ヲ生スベキハ明カニシテ、遂ニ職
給税ノ効用水泡ニ歸スルヲ免レザルニ至ルベキナリ、
又彼ノ一方ニ與ヘテ他方ニ奪フトイフノ語モ素ヨリ誤謬タルコト明白ナリト云
ハザルベカラズ、何者政府ノ俸給ヲ拂フハ官吏タル身分ニ對シテ行フコトナレド
モ、政府ノ租税ヲ徵課スルハ官吏タル身分ニ對スルニ非ズシテ、一般納税ノ義務

ヲ有スル人民トシテノ身分ニ對スルナリ、人ハ官吏トシテ俸給ヲ受ク然レドモ
其俸給ハ國民トシテノ彼等ニ執リテハ即チ一般普通ノ所得タルモノナリ、然ラ
バ實際ノ結果ハ一方ニ與ヘテ他方ニ奪フトイフニ等シト雖、形式ハ全ク異ル、是
ヲ以テ見ルモ、官吏ノ俸給ヨリ税額ヲ豫メ引キ去ルガ如キハ此異ナレル資格ヲ
混同スルモノタルコト知ルニ足ルベシ、

第九款 財産移轉税

第一項 總論

財産移轉税ハ直税ナリヤ將タ間税ナリヤハ尙ホ未定ノ疑問ニ屬ス、是レ直税間
税區別ノ標準ヲ論ズルニ方リテ吾人ノ既ニ叙述シタル所ナリ、然レハ普通諸國
ニ於テ直税ノ部類ニ屬セシムルヲ例トスルガ故ニ、吾人ハ間税ヲ論ズルニ先チ
今マ茲ニ之レが大要ヲ述ベント欲ス、

財産移轉税トハ財産ノ移轉ヲ目的トシテ課スル所ノ租税タイプ、時ニ諸國ノ立
法例中財産ノ使用權移轉ニ課スル租税ヲモ包含セシムルモノアレドモ、普通財
産ノ移轉トハ所有權ノ移轉ヲ指スモノニシテ、相續税贈與税賣買税ノ如キハ其

主要ナルモノタリ、
 此租税ガ性質上手数料ニ酷似セルハ既ニ治ク人ノ知ル所ニシテ、現ニ本邦ノ登録税ノ如キハ名ヲ租税ニ稱ルモ其實ハ手数料ニ近キモノト謂フベシ、然レドモ財産ノ移轉ヨリ生ズル強迫上ノ收入ガ果シテ租税ナルヤ又ハ手数料ナルヤハ一ツニ其收入ノ性質ニ繫由スルモノト謂ハザルベカラズ、
 財産移轉税ヲ課スル根據ハ實ニ國家ガ人民ノ財産ヲ保護ストノ理由ニ出ヅ、是レヲ以テ手数料ニ於ケル公證料若クハ登記料ノ性質ト甚ダ髣髴タルモノナクンベアラザルナリ、然レドモ手数料ノ本來主眼トスルトコロハ收入ニ非ズシテ、人民ニ對スル國家業務ノ報酬ヲ求ムルニ在リ、財産移轉税ニ於テハ否ラズ、即チ是レニ在リテハ收入ヲ得國家一般ノ公費ヲ補ハントスルニ在ルナリ、是レヲ以テ決シテ保證ノ報酬ニ止マラス更ニ其以上ニ及ブモノタリ、素ヨリ財産移轉税ニ於テ租税ノ徵收方法ハ證券印紙又ハ一定ノ印章ヲ有スル用紙ニヨリテ税額ヲ納メシムルヲ以テ形式ハ殆ンド公證料若クハ登記料ノ徵收方法ニ異ラザルモ、既ニ其ノ目的ヲ異ニスル以上ハ、區々形式ノ如何ハ論ズルニ足ラザルモノナ

リ、
 財産移轉税ハ財産ノ移轉ニ賦課スル租税ナリ、是ヲ以テ財産税ト混同スベカラズ、蓋シ財産移轉税ハ實ニ行爲税ナレバナリ、
 抑モ財産ノ移動ハ頻繁ニ起ル現象タルノミナラズ、之レニ課税スルノ理由ハ國家ノ保證ニ在ルヲ以テ、人民ハ敢テ脱税ヲ計ルノ愚ヲナス能ハズ、從ツテ財産移轉税ハ國家ニ收入ヲ支給スル一大財源ナリト謂ハザルヲ得ザルナリ、然レドモ政府ニシテ其保證ヲ名トシ妄リニ税率ヲ高クスルコトアラシク、人民ハ其移轉ニヨリテ得タル財産ノ一部ヲ割キテ税源ニ充ツルノ結果ヲ來スニ至ルベシ、是レ財産移轉税ニツキテ特ニ其賦課法ニ注意ヲ要スル所以ナリトス、
 第二項 移轉税ノ賦課ニ關スル注意
 財産移轉税ノ賦課ニツキテハ税目ニヨリ多少程度ヲ異ニスルモノアルヲ以テ、各別ニ之レヲ論ゼント欲ス、
 一、遺産相續税、
 茲ニ相續税トイフハ財産ヲ相續者ニ移轉スルニ方リテ課スル所ノ租税ヲイ

フ、相續ニ二類アリ遺言相續及ヒ法定相續是レナリ、而シテ其何レノ相續タルヲ問ズ、直系ノ子孫ニ財産ヲ移轉スル場合ト傍系ノ親屬ニ移轉スル場合トアルヘシ、之等ノ場合ハ相續稅ノ稅率ニ關シ區別ノ由リテ生ズル所ナレバ、立法者ハ須ラク之レヲ審カニセザル可カラズ、

法定相續ニヨル財産ノ移轉ト遺言ニヨルモノトハ、稅率ヲ異ニスルヲ可トストハ夙ニ學者ノ唱道スル所ニシテ、其理由ハ專ラ被相續者ノ意思明瞭ナルト否ラザルモノトアルガ爲ニ出ヅ、然レドモ法定相續ニ在リテ被相續者ノ意思明カナラザルガ爲メニ稅率ヲ重クスルモノ可ナリトスルガ如キハ、恐ラク感情ニ支配セラレタル論議ナルベシ、且ツ普通ノ場合ニ在リテハ遺言相續者ハ法定相續者ト大差ナキヲ以テ相續ノ種類ニヨリテ稅率ヲ異ニスルハ却テ公平ナル結果ヲ生ゼザルベシ、然レドモ直系ノ嗣子若クハ嗣孫ニ財産ヲ相續スルカ將タ傍系ノ子孫其他ノ親族之ヲナスカハ大ニ稅率ヲ異ニスベキ必要ノ存ズル處ナルベシ、蓋シ等親ノ漸ク遠キニ從ヒ稅率ヲ重クスルヲ至當トス、是レ直系ノ子孫ハ當然財産ヲ相續スベキモノニシテ既ニ被相續者ノ生存中ヨリ

豫メ判然タル所ナレドモ其他ノ親族ニ至リテハ往々意外ニ利益ヲ僥倖シタルノ觀ナシトセズ、且ツ被相續者ノ財産ヲ遺贈スル意思ヨリ觀察スルモ血縁ノ遠キ親族ニ所有權ヲ移轉スルハ止ムヲ得ザルニ出ヅルモノニシテ、苟モ財産ヲ貯蓄シ貨殖ノ途ヲ講ズル所以ノモノハ最近親ノ子孫ニ之レヲ與ヘントスルガ爲メナレバナリ、是故ニ稅率ハ次第ニ最近親ヨリ遠カルニ從ヒ之レヲ重クスルヲ當然ノ事理トス、

且ツ公平ニ相續稅ヲ賦課センニハ更ニ尙ホ他ノ諸點ヲ參照セザル可カラズ、

- 一、租稅ヲシテ財産ノ一部ヲ減殺スルガ如キ結果ヲ生ゼシメザルヲ、
- 一、課稅スヘキ財産ハ宜ロシク相續ニヨリテ負擔スベキ債務ヲ控除シタルモノナルヲ、
- 一、小額ナル遺產相續ニハ課稅ヲ免除スベキヲ、

等即是レナリ、

一、賣買稅

賣買稅トハ不動産又ハ有價證券ノ類ヲ賣買スルニ方リテ課スル所ノ租稅ヲ

イフ、如此キ財産移轉ニ課スル租税ハ遙カニ税率ヲ低クシ極メテ負擔ヲ輕カラシムベキモノナリ、否ラザレバ、一般經濟ノ發達ヲ害スルニ至ルベシ、爰ニ一言ヲ挾ムノ要アルハ、相續税又ハ贈與税其他ノ移轉税ヲ以テ社會政策ノ目的ヲ達スル手段ニ供セントスルコトニ在リ、蓋シ社會政策ノ立場ヨリ論ズルトハ貧富ノ懸隔ヲ匡正スルハ國家社會ノ希望スル所ニシテ如此キ希望ヲ收ムルニハ財産移轉税ヲ重課スルハ甚ダ好都合ナリト謂フモノ、如シ、從ツテ財産ノ大小ニヨリ累進的税率ヲ賦課スルハ尤モ緊切ナル要務ナリトスルニ似タリ、吾人モ亦社會政策ノ行ハル、ヲ贊スルニ踟躇セズ、是ヲ以テ財産移轉税特ニ相續税ノ重課ヲ敢テ絶對的ニ不可ナリト論ズル者ニ非ザレドモ、此ノ如キ種類ノ租税ト人民ノ産業トハ實ニ密切ナル關係ヲ有スルモノニシテ重課ノ結果動々モスレバ私人ノ貯蓄心ヲ滅殺セシムルノ弊害ナシトセズ、然レバ假令社會政策ノ主旨ニ適スルモ姑ラク諸種ノ事情ヲ斟酌シ其最モ弊害少キ場合ヲ撰ンテ漸次税率ヲ高メサルベカラズ、殊ニ本邦ノ如キ産業尙幼稚ナル國情ニ在リテハ寧ろ極メテ輕課ノ要アルベキナリ、

第三項 財産移轉税ノ徵收法

財産移轉税ハ普通左ノ方法ヲ以テ徵收ス、

一、印紙ノ貼用

一、官ノ印章アル用紙ノ強迫使用

是レナリ、此他直接徵收法ノ如キハ殆ンド現今行ハレズ、蓋シ既ニ手数料ノ徵收法ニ於テ論ヲタル如ク、印紙代用法ハ誤用ノ虞アルニモ拘ハラズ、尤モ簡便ニシテ殊ニ此移轉税中相續ノ如キ多少人民ノ感情ヲ害スルモノニアリテハ徵收者ハ印紙ヲ貼附セシムルコトニヨリ間接ニ人民ニ對スルノ態度ヲ得、以テ惡感情ヲ避クルニ至ルモノト謂フベキナリ、

第十款 消費税

第一項 消費税

消費税トハ消費物ヲ課税ノ基礎トセル租税ノ意ニシテ立法者ガ豫メ租税ノ負擔ヲ消費者ニ歸セシメンコトヲ希望スル間税ヲ云フ、消費税ハ夫レ既ニ間税タリ是ヲ以テ消費物品ヲ販賣製造スル營業者ハ租税ノ賦課ヲ受クルモ是レ恰カ

モ消費者ニ代リテ一時納税スルモノニシテ自カラ負税者タルモノニ非ザルナリ、消費税ハ殆ンド間税ノ全體ヲ成スモノナルヲ以テ間税ノ利害得失ハ又タ消費税ノ利害得失ト云フモ不可ナシ、故ニ吾人ハ茲ニ再ビ直税間税ノ比較討究ヲ試ミザルベシ、然レモ消費税ハ國家經費ヲ支給スル一大財源ナルヲ以テ其賦課ハ貧富ノ間ニ公平ニ瀾及セザルモ財政上空シク此一大收入ノ淵源ヲ排棄スルヲ得ズ、且ツ既ニ直税ハ之レヲ貧者ニ課セシムルヲ困難ナリトスレバ強チ消費税制ノ存設ヲ以テ漫リニ貧者ヲ苦マシムルモノナリト速断スベカラザルニ似タリ、加之人類ノ消費額ハ精密ニ之レヲ算出スルルハ素ヨリ貧富其財力ノ異ナレルニ比例スベカラザルモ、亦タ多少富人ノ消費高ハ貧者ノ消費額ニ超ユルノ觀アルガ故ニ、此點ニ於テ消費税ノ幾分財力ニ比例スルノ性質ヲ有セズトスベカラザルナリ、然レモ到底直税ノ比ニ非ザルハ蓋シ疑フベカラズ、夫レ如此ク消費税ノ困難ナルハ其一般的ナルヲ得ザルニ非ズシテ實ニ其平等的ナルヲ得ザルニ在リ、是レ消費税ノ困難ナル所以ニシテ竟ニ奈何トモシ難キ

點ナリトス何者消費税ハ其基礎ニ於テ打チ勝ツベカラザル一大障害ヲ有スレバナリ、即チ特殊ノ消費物品ニ課スルモ、汎ロク一切ノ消費物品ニ課税スル能ハザル事是レナリ、而シテ如此キ特殊ノ消費物品ハ多ク日常ノ必需品ナルヲ以テ富者ノ消費モ貧者ノ消費モ左迄逕庭ヲ生ゼザルニ至ル、若シ一切ノ消費物ニ課税スルヲ得ベカリシナランニハ、無論富者ハ貧者ニ比シテ生計費巨額ナルヲ以テ從ツテ租税ノ負擔亦タ大ナルヲ得タリシナルベシ、而モ如此キ煩雜ナル租税ノ徵課ハ到底國家ノ堪ユベキ所以ニ非ザルヲ奈何ニセシヤ、消費税ハ前ニモ言ヘルガ如ク殆ンド間税ノ全體ヲ形ルモノニシテ、其部屬ノ税目モ從ツテ甚ダ多シ、今マ左ニ普通ノ標準ニヨリ主要ナル類別ノ二三ヲ列叙スベシ、

一、國産税

二、關税

國産税及關税ハ消費税ノ二大類別ナリトス、蓋シ内國ノ消費物品ニ課スル消費税ト外國ヨリ輸入スルカ又ハ内國ヨリ外國ニ輸出シ外國ニ於テ消費スル物品

ニ課スル消費税トノ二類ニ分チタルモノニシテ、其標準ハ消費物品ノ國境ヲ通過スルカ否ラザルカニ存ズルモノトス、

一、純粹ノ消費税

二、準消費税

純粹ノ消費税トハ普通ノ消費税ヲ總稱セルモノニシテ凡ベテ租税ノ名義ヲ以テセラル、消費税ハ即チ是レナリ、準消費税トハ租税ノ名義ヲ以セズ政府ノ專賣ニヨル收入タイプモノナリ、曾テ強迫上ノ收入ヲ類別スルニ方リテ吾人ハ手數料租税及國家ノ特占的專業ニヨル利益ノ三箇ヲ算ヘタリ而シテ其特占的專業ノ利得ナルモノ即チ此ニ所謂準租税ヲナスモノニシテ、例セバ煙草專賣ニヨル政府ノ收入若クハパブランダール專賣ニヨル政府ノ收入ノ如キタイプ、是等ノ收入ハ煙草ノ消費ニ租税ヲ課シ又ハパブランダールノ消費ニ租税ヲ課スル代リニ政府自カラ之レガ專賣ヲナシ豫メ課スベキ税額ヲ取得スルモノナルヲ以テ其性質毫モ消費税ニ異ナラザルナリ、是ヲ以テ廣義ノ消費税中ニハ實ニ此二箇ノ類別ナカルベカラズ、

一、必要品ノ消費税

二、奢侈品ノ消費税

關稅ハ普通消費税中別個ノ地位ヲ有スルガ故ニ今姑ラク之レヲ除外ストセバ國產税ハ往々右ノ如クニ區別セラル、必要品ノ消費税トハ食鹽税砂糖税石油税ノ如キモノ是レナリ、奢侈品ノ消費税トハ凡ベテ驕奢ノ用ニ供スルモノニシテ、絹布税骨牌税ノ如キモノ是レナリ、又タ職業ニ使用スル荷車人力車ニ課スル税ノ如キハ前者ニ入ルモノニシテ、手車自用馬車ニ課スル租税ノ如キハ後者ニ屬スルモノナリ、然レモ消費税ヲ必要ト奢侈ノ二類ニ區別スルハ往々其所屬曖昧ナル者ヲ生ズ、酒税煙草税ノ如キハ姑ラク之レヲ奢侈税ノ部類ニ加入セシムルトスルモ、彼ノ砂糖ノ如キハ必シモ一概ニ必要品ナリト稱スルヲ得ザレバナリ、是ヲ以テ教科書ニヨリテハ往々奢侈ニ關スル消費税ヲ分類シテ純粹ノ驕奢税ト否ンザルモノトニ區別シ、其驕奢税以外ノ奢侈税ヲ區分シテ純粹ノ必要消費品以外ノ物品ニ課スル租税ヲ總括スルモノアリ、吾人ハ姑ラク國產税關稅ノ類別ニ從ヒ更ニ又タ國產税ヲ區分シテ必要品ノ消費税驕奢税及其中間ノ消

費税即チ有用品消費税ノ三種トシ、之レニヨリテ聊カ説明ト論評トヲ試ミント
欲ス、

第二項 國産税

第一、緒論

國産税トハ内地ノ消費物ニ課スル消費税ヲ總稱スルモノナリ、而シテ國産税ノ
賦課徴收ニツキテ記憶スベキ要點大略左ノ如シ、

一、消費税ハ既ニ言ヘルガ如ク到底精密ニ人民ノ財力ニ比例セシムルヲ得
ザルモノニシテ要ハ國庫ノ收入ヲ支給スルニ在レモ、可成公正ノ原則ニ背叛
セズ、出來得ル限リ賦課ノ平等ナルヲ期スベキヲ

是故ニ一般ノ消費税以外ニ特ニ富者ニ對シ奢侈税ヲ徵課シ若クハ有用品ニ
課税シ以テ必需品ノ課税ヨリ出ズル貧者偏重ノ負擔ヲ均正ナラシムベキヲ
可トス、

一、然レモ消費税ノ目的ハ國庫ノ收入ヲ求ムルニ在リ、是ヲ以テ成ル可ク收入
ノ大ナルベキ物品ヲ課税ノ基礎トシ、且ツ徵税手段ヲ勉メテ簡便ニスルヲ、

國産税ノ徵收方法ニ數種アリ、

(一) 消費物ノ生産高及販賣額ニ課税スル方法、

(二) 消費物ノ生産地ニ課税スル方法、

(三) 特占事業ノ利得ニヨリテ租税ニ代用スル方法、

(一)ハ更ニ別テテ、

推定法及調査法

ノ二トナル、

推定法ノ利トスル所ハ簡便ナルニ在リ然レモ同時ニ租漏ニ流ル、ノ缺點ナ
シトセズ、

調査法ノ短トスル所ハ徵收法ヲ煩雜ナラシメ從ツテ營業者ノ自由ヲ欲東ス
ルニ在ルナリ、然レモ此方法ニヨルモハ遺漏ナク、脱税遁租、人民ノ奸竊ヲ防ク
ノ利アリ、

生産地ニ於テ特別税ヲ課スルハ從來甚ダ問題トナレリ、此法ニヨルモハ粗生
品ノ品質ヲ検査シ一々之ニ準シテ課税スルニ非ザレバ地ヲ異ニスル間ニ不

平均ヲ生ズルヲ以テナリ、

准租稅ノ法ハ租稅ノ次節ニ於テ之レヲ論ズベキガ故ニ茲ニ敢テ之レヲ詳論セズ然レモ准租稅法ハ到底一般ノ消費品ニ及ブテ得ザルベク僅カニ政府ニ嗜好セル數箇ノ營業ニ止マルベシ、

之レヲ要スルニ現今諸國ニ於テ行ハル、方法ハ一様ナラズ或ハ右ニ掲ゲタル數種ノ方法ヲ併用スルモノアリ、單ニ推定法ニヨルモノアリ、或ハ又々調査法ニヨルモノアリ、吾現行制度モ消費物ノ種類ニヨリテ各種ノ徵收手段ヲ行フモノトス、

一、稅率ヲ重カラシムベカラザルヲ、

消費稅ノ稅率重キニ過グルルハ物價騰貴シ細民ノ困弊甚シキモノアルニ至ル、加之自然消費物ノ販賣額減縮スルヲ以テ國庫ハ却テ收入ヲ減ズルニ及ブベシ、且ツ稅率ノ高キニ失スル結果トシテ品質ヲ粗惡ニシ若クハ代用品ノ生産ヲ誘導スルニ至ルハ既ニ幾多ノ實例アリテ之ヲ示ス者ニシテ、例セバ清酒ノ課稅重キニ過クルルハ混成酒ノ製造盛ントナリ、又ハ麥酒ノ需用増加スル

ガ如キハ疑フベカラザルヲナレバ消費稅ノ稅率ハ尤モ善ク適度ヲ守ラザルベカラザルナリ、

第二、各種ノ國產稅

(一) 必需品ノ消費稅

必需品ノ消費稅ハ吾人日常ノ必需品ニ課稅スルモノナルヲ以テ課稅ノ基礎本來極メテ廣大ナリ、然レモ其性質ノ必需品ナルガ爲メ課稅ノ影響モ亦タ決シテ小ナリトスベカラズ、是ヲ以テ諸國ニ於テモ必需品ノ消費稅ハ他ノ消費稅ニ比シテ稅率ヲ輕クスルヲ例トシ、產業ノ發達ニ關係ヲ有スルヲ切ナルモノハ特ニ產業用ノ範圍内ニ限リ之レヲ免除スルヲトナレリ、

從來歐羅巴ニ於テ行ハル、必需品消費稅ノ中尤モ有名ナルモノハ食鹽稅ナリトス、食鹽稅ハ許多ノ消費稅中尤モ課稅ノ基礎大ナルモノニシテ且ツ徵收方法モ甚ダ簡便ナリ然レモ其貧民ヲ苦ムルノ點ニ於テ亦タ實ニ諸多ノ消費稅中ニ冠タルモノナルヲ以テ、近來ハ漸ク此稅法ヲ廢去シ唯歐羅巴南方諸國ニ於テ之レヲ存ズルアルノミ、

鹽稅ヲ課スルニ方リテ注意スベキハ食鹽ガ産業ノ發達ニ密切ナル關係ヲ有スルノ點ニ在リトス、本邦ノ如キ醬油ノ生産其他動植物ノ鹽漬業或ハ曾達ノ製造業ニ關シテ食鹽ノ必要不可缺ハ既ニ人ノ治ク知ル所ノ如シ是ヲ以テ食鹽稅ヲ課スルニ方リテ特ニ此等産業ニ供用スル目的ヲ有スル食鹽ヲモ一般普通ニ課稅ストセバ直接ニ産業ノ發達ヲ妨害スルハ明カナリ、故ニ斯カル生産用ノ食鹽ニハ稅率ヲ一層低クスルカ或ハ全ク免除スルヲ至當トス、

石油稅ノ如キモ課稅ノ基礎巨大ナルモノ、一ナリ、然レモ石油稅ハ消費稅トシテ良好ナル稅目ト稱スベカラズ、何者燈火ヲ得ルノ途ハ世上甚ダ多ク或ハ瓦斯燈ノ供給アリ、或ハ電燈ノ供給アリ、又蠟燭菜油ノ供給アルヲ以テ代用品ヲ誘發スル機會ニ頗ル饒カナリト謂フベキヲ以テナリ、

吾國ニ於ケル醬油稅ハ正シク必需品ノ消費稅トシテ甚ダ良好ナルモノナレモ稅率重キニ失スルルハ食鹽稅ト等シク殊ニ貧者ヲシテ生計ニ困難ヲ感ゼシムルモノトス、

砂糖稅ハ果シテ必需品ノ消費稅ト稱スベキカ將タ有用品稅ノ部類ニ入レシム

ベキカハ人ニヨリテ所見ヲ異ニス、勿論往時ニ在リテハ砂糖ノ用途ハ頗ル狹隘ナリシヲ以テ一般ノ人民ハ之レヲ用イズ、從ツテ必需品トナサザリシモ、今日ニ在リテハ諸國砂糖ノ需要ハ社會ノ各級ニ亘リシヲ以テ、若シ醬油ヲ以テ必需品ナリトイフヲ得ベクシ、砂糖モ亦タ明カニ必需品ナリト稱セザルヲ得ザルベシ、何者醬油モ往時ニ在リテハ全ク社會ニ使用セラレズ、人民ハ食鹽ヲ以テ其用ニ充テタレバナリ、砂糖稅ノ目的タル砂糖ハ年ヲ逐ウテ需用盛ンニ消費額漸次擴大スルノ傾向アルヲ以テ之レニ課稅スルハ實ニ國家收入上頗ル利便ナルモノアルベシ、加之砂糖ハ食鹽ノ如ク其需用貧者ニ緊切ナラザルヲ以テ租稅ニ對スル苦痛ハ社會ノ下層ニ降ルニ從ヒ次第ニ輕減スルモノト謂ハザルベカラズ、是レ實ニ砂糖稅ノ長所トイフベシ、且ツ砂糖稅ニヨリテ砂糖ノ代用品ヲ誘發スルヲモ少ク、蜂蜜其他ノ甘汁ハ決シテ供給大ナラザルヲ以テ旁々此租稅ハ甚ダ利便アルモノト謂ハザルベカラザルナリ、

必需品ノ消費稅トシテ茲ニ尙ホ附言スルノ要アルベキハ、食料其他燃料等ト全ク性質ヲ異ニスル機具類ノ課稅ナリトス、例セバ荷車渡船人力車等ニ課スル租

税ノ如キ是レナリ、如此キ租税ガ消費税ナルコトハ何人モ疑ハザル所ニシテ殊ニ荷車等ノ如キ必要ノ用ニ充テラレタルモノガ等シク必需品ノ消費税タルハ自ラ其結論タルベシ、然レモ普通生産用ノ機具類ニ課税スルガ如キハ惡税タルヲ以テ、必需品ノ消費税トシテ存ズルモノ甚ダ稀レナリ、而シテ諸國ノ地方税中ニ往々此類ヲ見ルモ多クハ皆ハ驕奢税ニシテ課税セラル、ヲ以テ今茲ニ之レヲ説明セズ、

(二) 有用品ニ課スル消費税

有用品トハ寧ロ廣意ノ奢侈品ニシテ人生ニ必要ナラザル物品ヲ云フ、如此キ物品ヲ目的トシテ賦課セル消費税ノ主要ナルモノハ酒税煙草税茶珈琲等香料ニ關スル租税ナリ、酒税煙草税ノ如キハ何レノ國ニモ存ズル間税ニシテ其收入モ亦タ甚ダ大ナリ殊ニ如此キ物品ヲ擇ンテ租税ヲ課スルハ頗ル適當ナリト謂ハザルベカラズ、何者其租税ノ結果國民ノ不徳ヲ獎勵スル等ノ患ナク寧ロ人ヲシテ暴飲過喫ノ弊ニ遠カラシムルノ傾向アレバナリ、加之人口ノ増殖國富ノ増進ト共ニ有用品ノ

消費ハ甚ダ大ナルモノアルヲヤ、

然レモ酒類又ハ煙草類ニ課税スルトキハ勢ヒ品質ヲ害シ若クハ代用品ヲ生ズルノ虞レナシトセズ、是ヲ以テ税率ノ適度ヲ保ツコト特ニ必要ナルモノアルベシ、然レモ亦タ考アル所ハ本來必需品ニ非ザルヲ以テ其税率ハ食鹽其他日用ノ消費物品ニ對スル租税ニ比シテ多少重課スルモ素ヨリ妨ナキモノトス、且ツ有用品等ニ課スル重モノナルモノハ通常國民ノ嗜好ニ適スルモノニシテ如此キ嗜好ハ祖先傳來ノ風俗ヨリ生シ一朝ニシテ課税ノ結果之レヲ廢シ又ハ代用品ヲ以テ満足スベキモノニ非ズ、酒ヲ嗜ム者必シモ麥酒ヲ嗜ムモノニ非ズ、茶ヲ好ム者必シモ珈琲ヲ好ム者ニ非ズ、又タ往々國產ノ貨ニ慣レタル者ガ容易ニ輸入ノ貨若クハ葉卷ノ類ニ親マザルハ吾人ノ數次目擊スル事實ナリ、是ヲ以テ有用品ニ課税スルニ方リテ之等ノ事情ヲ參酌スルニ非ザレバ尙ホ高ムベキ餘地ヲ有シ乍ラモ更ラニ税率ヲ高ムルコト能クセズ、結局國庫ノ收入ニ幾分ノ減縮ヲ來スコトアルベシ、

(三) 驕奢税

消費税ハ課税ノ基礎大ナルモノヲ擇ンデ之レニ課スベキヲ利トストハ既ニ吾人ノ論述セシ所ナリ是ヲ以テ驕奢品ノ如キ課税ノ基礎小ナルモノハ可成之レヲ避クルヲ要ス、

驕奢税ハ道德ヲ獎勵シ人民ヲシテ勤儉ノ美風ヲ涵養セシムルニ至ルベシトハ吾人ノ數次耳ニスル所ノ議論ナレモ租税ノ目的ハ本來人民ノ徳性ヲ養成スルニ非ズ唯消極的ニ不徳ヲ獎勵スルヲ避クルニ止マルヲ以テ這般ノ議論頗ル勢カヲ有セザルニ至レリ然レモ驕奢税ニシテ若シ調査簡便ニシテ收入甚々多シトセバ吾人ハ素ヨリ之レヲ課スルノ不可ヲ見ザルナリ今マ試ミニ驕奢税ノ一二ヲ執リテ其利害得失ヲ攻究セシ、

一、絹布税

絹布税ヲ課セヨトハ近年數次吾人ノ耳朵ニ觸ル、所ノ論議ニシテ其賦課法ニ至リテハ未ダ之レヲ審カニセザレモ想フニ各種ノ絹織物ニツキ其生産地又ハ販賣額ヲ調査シテ之レニ課税スルトト思ハル蓋シ絹布ハ奢侈品トシテ巨額ノ需用ヲ有スルモノナレバ從ツテ其收入モ亦大ナルモノアルベク驕奢税中尤モ

聽クニ足ルノ税目ト謂フベシ然リト雖絹布ニ課税ストセバ著シク産業ノ發達ヲ害シ特ニ生絲若クハ絹布ヲ輸出スルノ國ニ於テ大ニ其國富ヲ減少セシムルノ結果ヲ生ズベキナリ且ツ賦課法ノ如キモ到底精密ニ行ハレズ逋税ヲ計リ密賣ヲ試ムル者必ズ駁々トシテ起ルベキナリ加之今日人ノ衣服トスル材料ハ甚ダ少ナカラザルヲ以テ其收入モ必ズ意外ニ大ナラザルモノアルベシ然レモ絹布税ノ如キ若シ賦課徴收ノ方法簡易ニ行ハル、ヲ得バ驕奢税中確カニ屈指ノ租税タルヲ得ベキカ、

一、貴金屬其什器類ニ課スル租税

此租税ノ到底行フベカラザルハ明カナルモノアリ何者如此キ物品ニ課税スルニ當リテハ各人ノ家ニ就キ綿密ニ之レヲ調査セザルベカラザルヲ以テナリ而シテ特ニ之等ノ物品ハ最モ隱蔽シ易キモノナレバ其竟ニ言フベク行フベカラザルハ疑ナシトス、

一、自用馬車自用人力車其他遊船等ニ課スル租税

是等ノ租税モ基礎ハ至リテ小ナルヲ以テ普通地方税トシ之レヲ賦課スルノ習

慣アルモ國稅トシテ之レヲ存ズルハ甚ダ稀レナリ、

一、遊獵免許稅

此ハ國庫ノ收入ニ加フルコト僅少ナリトモ、職獵者ニ營業稅若クハ營業免許稅ヲ課スル以上ハ權衡ヲ保ツ爲メニ此稅制ヲ存セザルベカラズ、然レモ到底良好ナル租稅トシテ特ニ紹介スルノ必要アラザルモノトス、

然レモ茲ニ吾人ハ一言ヲ附記スルノ要ヲ見ル、驕奢稅ハ果シテ一派ノ論者ガ言ヘル如ク國民ヲシテ勤儉ノ美風ヲ守ラシムベキ傾向ヲ有スルカ是ナリ、若シ此傾向ヲ有セシムバシトセバ、之レニヨリテ國庫ノ收入ハ減縮スルガ故ニ財政上驕奢稅ハ不利ナル租稅トイフベク、若シ此傾向ヲ有セシメズトセバ論者ノ言ハ謬リニシテ驕奢稅ハ道德ヲ獎勵スルノカナキモノナルガ故ニ論者ノ理想ニモ適セズトイフベシ、畢竟孰レニモセヨ、財政學上ノ問題トシテ餘リ必要ナラザルコトナレモ、吾人ヲ以テ見レバ驕奢稅ハ奢侈品ノ高等ナルニ從ヒ毫モ課稅ノ結果道德ヲ獎勵スルニ足ラザルノ觀アルガ故彼一派驕奢稅ヲ渴仰スル人士ノ頂門ニ一針ヲ加ヘ兼テ此租稅ノ積極的ニモ消極的ニモ著シキ効益ナキヲ辯シ置

カント欲ス、蓋シ近世ノ社會政策派ガ主張スル所ニ從ヘバ租稅ハ多少積極的ニ社會ノ道德ヲ獎勵スルノ任務ヲ有スルニ似タルモノアリ、貧富ノ懸隔ヲ緩和セシムガ爲メニ累進稅率ヲ可トストイフガ如キハ即チ是レナリ、是ニ由リテ之レヲ觀レバ驕奢稅ノ積極的効益ノ如何ヲ論ズルハ必シモ強イテ無用ノ費辯ニ非ルヤモ知ルベカラズ、是レ吾人ノ少シク所見ヲ陳セント欲スル所以ナリトス、抑モ奢侈品ノ大ナルモノハ貴金屬類ノ裝飾品ニ若クハ莫シ、而シテ之等ノ物品ヲ以テ身邊裝飾リ若クハ室内ヲ裝フガ如キハ勤儉ノ美風ニ非ズトシテ、之レニ重稅ヲ課ストセンカ、吾人ハ其ノ結果ノ毫モ効ナキヲ告ゲザルヘカラズ、ラフレ

|| 曾テ其著奢侈論ニ謂ツテ曰ク、
人ハ何故ニ贗造ノ眞珠ヲ嫌フカ、人若シ美ヲ愛ストセバ贗造ノ眞珠ハ眞正ノ眞珠ニ勝リテ美麗ナルヲ以テ、須ラク眞正ノ眞珠ヲ嫌フテ贗造眞珠ヲ愛セザルベカラズ、然ルニ人ノ美ヲ去リテ醜ニ就クヲ欲スル所以ノモノハ何ゾヤ、是レ他ナシ人ハ虛飾心ヲ有スレハナリ、而シテ如此キ虛飾心ハ人ヲシテ其形狀却テ醜キ眞正ノ眞珠ヲ擇ブニ至ラシムルモノト謂ハザルベカラズ、乞フ配セ

ヨ、夜會ニ於テ妙齡ノ淑女ガ其頸ノ周邊ニ纏ハシムル眞正ノ眞珠ノ環ハ、裏面ニ於テ渠ノ富ハ如此キ高價ノ物品ヲ購フニ足ルトノ意ヲ寓スルニ外ナラザル事ヲ、夫レ如此シ苟モ人類ニシテ此虛飾心ヲ排棄セザル以上ハ、物價ノ高低ハ毫モ奢侈ノ流行ニ對シ敢テ關スル所ナカルヘク、物價愈々高クレバ、人ハ之レヲ購フテ其富ヲ示サントスルノ念モ又々愈々大ナルニ至ルベケン、(意譯)ト、然ラバ驕奢稅ヲ課スルノ爲メニ奢侈ノ惡風ヲ滅シ得ベシトスルハ寧ロ皮相ノ見解ニ近カラズヤ、而シテ吾人殊ニ奢侈ノ大ナルニ從ツテ愈課稅ヲ以テ之レヲ醫スルノ困難ナルヲ認メズンバアラザルナリ、故ニ驕奢稅ハ專ラ收入ノ點如何ヲ顧ミ國家ノ財政上別ニ他ニ其財源アラザルノ時、止ムヲ得ズ始メテ之レヲ課スベキ者ニシテ、決シテ平時苦ンテ此處ニ財源ヲ求ムルノ必要アラザル者トス、

第三項 關稅

- (一) 關稅ノ定義 關稅トハ凡テ各般ノ財貨ガ國境ヲ通過スルノ際之ニ賦課スル租稅ノ意義ナリ。
- (二) 關稅ノ性質 此故ニ關稅ノ被稅者ハ通常現ニ國境ヲ通過セシムル財貨ノ生

產者若クハ分配者ナリト雖、其課セラレタル租稅ハ早晚消費者ノ負擔ニ歸スルヲ以テ恒トスルガ故ニ關稅ノ性質ハ亦タ之ヲ一種ノ消費稅ナリト云フヲ得ベシ。

- (三) 關稅ノ類別 關稅ハ分チテ三種トス其一ハ輸出稅即チ是ナリ、其二ハ輸入稅即チ是ナリ、其三ハ通過稅即チ是ナリ。

第一、輸出稅

輸出稅トハ內國ノ物品ヲ外國ニ輸出スルニ方リ內國ニ於テ課スル關稅ヲイフ、其課稅ノ利害得失ニ就キテハ頗ル議論ナキヲ得ズ、或ハ曰ク輸出稅ハ常ニ内地產物ノ販路ヲ沮害シ之レガ結果トシテ貿易ノ發達ヲ抑制スルガ故ニ全然廢滅ニ歸セシムベキ租稅ナリト、或ハ曰ク輸出稅ノ課稅物件ガ他國ノ競争シ能ハザル一國特有ノ產物ナルル及ヒ輸出稅ノ賦課ニヨリ價格騰貴セルニ方リテ他國ノ消費者ガ別ニ代用物ヲ求得スル憂ナキル之等ノ條件ヲ有スル物品ニ輸出稅ヲ課スルハ決シテ不可アル事ナシト、或ハ曰ク内地ノ產業ヲ保護獎勵スルニ方リテ輸出稅ヲ賦課スルハ必シモ想像シ得ラレザルノ事ニ非ズ、例セバ盛ソニ材

木ヲ輸出スルノ結果山林ヲ緒廢スルノ弊害ヲ豫防センガ爲ニ輸出税ヲ課スルトセバ、如此キ場合ニ於ケル輸出税ハ未ダ決シテ全然害アリテ利ナキノ租税ト云フベカラザルニ似タリト、世間往々ニシテ石炭ノ輸出ニ課税スルヲ以テ、不可ナシト論ズル者時々有第三説ヲ援用スルアリ、然レモ素ヨリ其論據淺薄ニシテ一顧ノ價ナキガ如シ、余輩ハ多數ノ學説ニ隨ヒ輸出税全廢ノ利アルヲ信ゼント欲ス。

第二、輸入税

輸入税ハ讀ンテ字ノ如ク外國ノ物品ガ内國ニ輸入セラル、其賦課スル所ノ租税ニシテ其目的大約ソ三箇アリ、第一ハ輸入税ノ賦課ハ内地ノ産業ヲ保護スルニ在リトナスモノ是ナリ、第二ハ究竟内地ノ産業者ヲ保護スルノ旨意ニ同シト雖モ、其基ク所ハ公平ヲ保タシメントスルニ存ズ、即チ若シ輸入貨物ニ租税ヲ課スルコトナシトスレバ、内地ノ産業者ハ既ニ其物品ノ上ニ内地消費税ヲ課セラ、ガ故ニ消費税ノ賦課ヲ受ケザル外國産ノ物品ト對衡上平均ヲ失スルニ在リトスルモノ是ナリ、第三ハ國庫收入ノ點ヨリ輸入税ヲ課スルヲ利トスルモノ

即チ是ナリトス、通常人ノ保護税補償税國餉税ノ名稱ヲ立ツルハ以上目的ノ岐ル、所ニ應ツ各稱呼ヲ附シタルモノナリト知ルベシ。

保護的輸入税ノ得失ハ蓋シ自由貿易説保護政策説ノ相岐ル、問題ニシテ今茲ニ詳細ナル説明ヲ與フルコトハ到底紙數ノ限リアル小冊子ノ容ル所ニ非ズ、唯簡略ナル記載ヲ掲ゲテ兩説ノ依リテ起ル所以ヲ叙説スルニ止メン、自由貿易論者ノ主張スル所ニ憑レバ國土ノ異レル所ニハ異レル産業起ルハ正ニ天理ニシテ分業ノ發達上生産品ノ廉直ニ購ヒ得ラル事ハ蓋亦經濟ノ原則タラズンバアラズ、何チ若ンデ強イテ自國ニ不利ナル産業ヲ興シ好ンデ廉價ナル外國品ノ輸入ヲ防キ以テ高直ナル内地産ノ貨物ヲ需ムルヲ要センヤト、保護政策論者ハ曰ク、凡ソ國家ノ獨立スルニ方リテハ亦タ産業ニ於テモ他國ニ依頼スル所ナキヲ要ス、一國ノ需用スル所ハ其一國ノ供給スル所タルニ非ズシテ焉ソ眞ニ能ク獨立ノ維持ヲ完ウスルコト得ベケンヤ、若シ天然ノ優劣ニ委シテ顧ミズ内地産業ノ發達ヲシテ自然ニ放任セシムトナラバ、殖産ノ前途只衰頹アルノミト、今世上右二説ニ對スル判斷ノ稍々一定スト視ラルベキ見解ヲ序記セバ、概シテ新開

國ノ如キ産業尙未ダ幼稚ナル國情ノ下ニ在リテハ妄リニ自由貿易主義ヲ實施スルハ寧ロ危険ナルベク斯カル國柄ニ於テハ必ズ多少保護政策ヲ試行セザルベカラザルノ要アリトスベシ且ツ又一朝戰時若クハ事變ニ方リテ一國ノ需用スル貨物が偶交戰國ノ特産ニ繫ルガ爲メ直チニ不便ヲ生ズルノ虞レヲ防ガンニハ既ニ平時ニ於テ内地ノ産業ヲ保護獎勵スルノ必要アルベキハ論ヲ俟タザルナリ然リト雖モ理論トシテノ問題ハ自由貿易主義ヲ以テ原則トスルヲ正シトスルハ多數學者ノ唱道スル所タルニ似タリ蓋シ歴史上吾人ノ經驗ニ徴スル所ハ保護稅カ曾テ歐羅巴ニ於テ幾多ノ困難ヲ惹キ起サシメタルヲハ爭フ可ラザルノ事實ニシテ今世紀ノ初メ英國ニ於テ小麥ニ苛重ナル輸入稅ヲ課シ其結果國民ヲ塗炭ニ苦シメタルヲハ英國憲法史上太切ナル事跡トシテ人ノ洽ク知ル所ナリ其後チ歐羅巴大陸ニ於テ戻稅（戻稅）ノ法ヲ設ケ粗製品ノ輸入ニ賦課スル租稅ノ幾分ヲ精製ノ後輸出スルニ際リテ拂戻ス（拂戻）トシ以テ内地ノ産業ヲ保護スルノ策ニ出テシト雖、拂戻スベキ稅額到底正確ナルヲ得ザルノミナラズ當初輸入稅ヲ負擔シタル資本ノ利息ハ之ヲ回收スルニ由ナキヲ以テ幾許モナク戻

稅ノ制衰頽シ更ニ代フルニ一時輸入稅免除ノ法ヲ以セリ此方法ニヨレバ特定ノ期間内ニ輸入粗製品ヲ精製シ輸出スル者ニハ輸入稅ヲ免除シ若シ該期間ニ於テ之ヲ爲シ能ハザルトハ是ニ至リテ初メテ輸入稅ノ支拂ヲ命ズルモノナリ然リト雖モ其手數ノ繁雜ナルト工業ノ進歩ニ伴フ複雜ナル關係ハ遂ニ此制度ヲモ打破セズシテ止ムコト能ハズ加之保護稅ハ内地產業者ヲ保護スルモ其内國消費者ノ負擔ヲ輕減スルコトナク依然トシテ内國產ノ貨物ト同等ノ價ヲ拂ハザルベカラザルガ故ニ換言セバ保護稅制ノ存在ハ恰カモ消費者ヲシテ亦タ内地產業者ヲ保護スルノ義務ヲ負ハシムルガ爲メニ保護稅ノ目的ヲ以テ輸入稅ヲ課スルノ論據ハ今日一般ニ學者ノ排斥スル所タルニ至レリ是ニ於テカ輸入稅賦課ノ標準ハ專ラ之ヲ國庫收入ノ點及ヒ公平ヲ維持スルノ點即チ國餉稅並ニ補償稅ニ取ルコトナレリ。

第三、通過稅

通過稅トハ讀而如字ク外國ノ貨物が國境ヲ通過スル時之レニ課スル租稅ヲイフ例セベ米國ヨリ露國ヘ向フ船舶ガ途上日本ニ寄港スル時日本ノ領海ヲ通過

セリトノ故ヲ以テ其船舶ノ積載セル貨物ニ課税スルモノナリ、通過税ノ惡税タルハ蓋シ知ルヘキノミ、試ミニ思ヘ如此クシテ誰カ敢テ日本ノ港灣ニ入航スルヲ欲スルモノアランヤ、必ズ貨物船ノ如キハ務メテ日本ノ領海ヲ通過スルヲ避クベキニ至ラン、從ツテ日本ノ港ニ上陸シテ金錢ヲ費消スル船員モナク、薪炭ヲ日本ノ内地ニ求ムルノ機會モナカルベキナリ、殊ニ將來ニクワラガ運河ト西比利亞鐵道ノ中間ニ横ハルベキ日本ノ如キニアリテハ斷乎トシテ如此キ惡税ヲ避ク諸國ノ船舶ヲシテ一隻ダモ其港灣ニ入航スル事多ラシムルヲ務ムルハ正ニ當然ノ事ト謂ハザルベカラズ、

第四、關稅ノ賦課方法

關稅ノ賦課法ニ二種アリ、從量稅ト從價稅ト是ナリ、從量稅トハ貨物ノ大小輕重ニヨリテ所定ノ稅額ヲ課スルモノナリ、從價稅トハ之ニ反シテ大小輕重ヲ問ハズ貨物ノ價格ニヨリテ稅額ヲ課スル法ナリ、二者各得失ヲ有ス、
從量稅ノ缺點ハ實ニ往々高價ナル貨物ニ輕クシテ低廉ナル貨物ニ重キノ結果ヲ生ズ、加之容積ニヨリテ豫メ定メタル稅額ナレバ貨物ノ價格變動スルニ從ツ

テ課稅ノ結果一樣ナラズ、昨日輸入ノ貨物ハ今日ノ貨物ニ比シテ其價格ニ對シテ低廉ナル租稅ヲ支拂ヘルモ今日ノ貨物ハ甚ダ高價ナル課稅ヲ受ケタリトイフガ如ク、價格ニ比例セザルヲ以テ從ツテ其變動ニ伴フヲ得ザルノ現象ヲ生ズヘキナリ、且ツ貴金屬類ノ如キ高價ナル物品ハ多ク容積小ナルヲ以テ從量稅ハ結局富者ヲ保護スルノ形ナシトイフベカラズ、然レドモ亦タ從價稅ニ隨フ時ハ價格ノ評定甚ダ困難ニシテ徵收頗ル煩雜ナルヲ免レザルヲ以テ、勢ヒ從量稅ノ簡便ニ就カザルヲ得ザルベシ、故ニ吾國稅ノ如キモ概テ同種類ノ物品ハ從量法ニ憑リ、著シク價格ノ異ナルモノ、間ニ自カラ稅率ヲ異ニシ以ツテ其不公平ノ結果ヲ防ガント計レリ、

抑モ保護政策ノ必シモ國是ニ非ザル事ハ既ニ所陳ノ如キヲ以テ關稅ヲ課スルニ方リテハ主トシテ政府ノ收入ヲ眼目トセザルベカラズ、故ニ租稅ヲ賦課スルニモ成ルベク課稅ノ結果輸入ヲ抑損スルガ如キ物品ヲ擇フベキニ非ザルナリ、且ツ關稅ヲ負擔スル者ハ畢竟内地ノ消費者ナルヲ以テ又タ成ルベク課稅スベキ品目ヲ少クスルヲ要ス、

第四、關稅ノ稅率

關稅ノ稅率ニ二種アリ

- 一、條約稅率
 - 二、法定稅率
- 是レナリ

條約稅率トハ締盟國ノ貨物ニ對シテ關稅ヲ課スルニ方リ、其憑ル所ノ稅率ヲ云フ、即チ條約ニヨリテ定メラレタル稅率はレナリ、

法定稅率トハ内地ノ法律ヲ以テ定メタル稅率ニシテ無條約國ノ物品ニ課稅スル標準ヲ云フモノナリ、

第五、關稅ノ弊害

關稅ハ須ラク補償稅ノ性質ヲ以テ課スルカ若クハ國庫ノ收入ヲ目的トスル國餉稅トシテ課スルニ止ムベキモノニシテ、内地ノ産業ヲ保護スルガ爲メニ之レヲ課スルハ宜ロシク課稅國ノ新開國ナルヤ否ヤヲ參酌スベシトハ既ニ前段ニ於テ吾人ノ説明セル所ニ屬ス、此ニハ關稅ニ就キテ免ルベカラザル絕對的ノ弊

害ト稱スベキモノ大約ソ三箇ヲ説明スベシ、

其一、關稅ハ巨額ノ徵收費ヲ要スルヲ、

關稅ヲ徵收スルニハ國家ハ必ズ稅關ヲ設置セザルベカラズ、否ラズンバ輸出輸入ノ物品ハ之レヲ取締マルヲ得ズ、密輸ノ惡弊ハ百出スルニ至ルベケレバナリ、而シテ關稅ノ維持費、稅關吏ノ俸給ハ巨額ニ達スルヲ以テ關稅ノ收入ハ其實際ニ於テ意外ニ少ナルヲ例トス、

其二、關稅ハ消費品ノ物貨ヲ騰貴セシムルヲ、

關稅ノ賦課ハ内地ノ消費者ノ負擔ニ歸スルモノナルヲ以テ消費品ハ一般ニ其價ヲ騰貴シ殊ニ粗生品ノ如キハ其物價ノ騰貴ニヨリテ内地ノ製造家ニ少カラザル困難ヲ與フルモノトス、

其三、關稅ハ交通ノ發展ヲ妨害ス、

關稅ノ制度アリ稅關ノ設置アル以上ハ、海國ニ在リテハ輸出入ノ港灣ハ限定セラレ、陸上國境ヲ接スル國ニ在リテモ一定ノ道路ヲ制限セラル、モノニシテ爲メニ交通ノ自由ハ束縛セラレ貨物ノ運搬ハ迂回セザルヲ得ザルニ至ル、而シテ

之ヲ觀ガント欲サバ國家ハ諸多ノ港灣ニ稅關ヲ設ケザルベカラザルヲ以テ、其經費ハ莫大ナラザルヲ得ザルニ及ブベシ、

第十一款 地方稅

第一項 總論

財政學ハ政治團體ノ財政ニ關スル原理原則ヲ説クヲ以テ目的トスルガ故ニ、必シモ獨リ國家ノ財政ヲ論ズルニ止マラズ、汎ロク自治體ノ財政ヲモ討究セザルベカラザルモノタリ、然レドモ財政ニ關スル理論ハ其國家ニ屬スルト地方團體ニ屬スルトニヨリテ甚ダシク差異ヲ生ズルモノニ非ザルヲ以テ、吾人ハ本編ニ於テ專ラ國家ノ財政ニ就キテ其原則ノ存ズル所ヲ明カニセリ、然レドモ國家ノ財政ハ地方團體ノ財政ニ關聯スル所決シテ擧ナカラズ、是レ國家收入ノ基礎タル人民ハ必ズ又々地方團體ヲ構成スル所ノ人民ナレバナリ、是ヲ以テ特ニ其關係密切ナル地方ノ財政ハ國家財政學ニ於テモ須ラク研究スル所アルヲ要ス、地方稅ノ始キ即チ其一ナリ、
試ミニ思ヘ、國家ノ賦課スル國稅ニシテ苛重ナリトセンカ、人民ハ其市町村ノ行

政ヲ維持スベキ支出ヲ負フヲ能ハズ、從ツテ自治體ノ制度ハ荒廢ニ委セラレ、ニ至ルベキニ非ズヤ、然ラバ國家タルモノハ其收入ヲ支給スルノ途ニ於テモ側ラ常ニ自治體ノ支出並ニ之レヲ供給スル人民ノ負擔力ニ意ヲ用アルヲ必ズ深切ナルモノナクンバアラザルナリ、且ツ現今文明國ニ在リテ自治體ノ發達ハ頗ル迅速ニシテ其經費モ非常ノ勢力ヲ以テ増進スルニ至レルガ爲メ、地方財政學ノ特別研究ハ國人ノ一日モ忽ニスルベカラザル所ナルヤ、費言ヲ俟タザルナリ、然レドモ茲ニ之レヲ陳述スルノ暇ナキヲ以テ、今姑ラク地方收入ノ一部ヲナス、地方稅ニツキテ簡單ナル説明ヲ掲グルニ止ム、

第二項 地方稅ノ解釋及類別

地方稅トハ自治團體ノ經費ヲ支辨センガ爲メニ人民ニ賦課スル一切ノ租稅ヲ云フ、汎ロク人民ト稱シ敢テ其所屬ノ人民ト言ハザルモノハ、往々他ノ團體ノ人民ニ向テ租稅ヲ課スルコトアルガ故ナリ、地方關稅ト稱スルモノ、如キ蓋シ其一例トス、

地方稅ニハ直稅アリ又間稅アリ、然レドモ其性質ハ毫モ國稅ノ類別ニヨルモノ

ト異ラザルヲ以テ今マ之レヲ説明セズ、普通地方税ニ關スル類別法ノ著名ナルハ地方税ヲ國税ニ附加シテ課スルモノト其全ク否ラザルモノトノ二者トス、彼附加税ト稱スルモノハ蓋シ前者ノ謂ナリ、地方税ニハ又タ一般税ト特別税ト二者アリ、特別税ハ或ル一定ノ目的ノ爲メニ徵收スル租税ニシテ一般税トハ團體一般ノ費用ニ支辨スル租税ニ外ナラズ、附加税ト其否ラズシテ自由ニ名目ヲ設ケテ徵課スル租税(假リニ自由税トイフ)ト孰レカ地方税トシテ利多ク害小ナキヤハ宜ロシク研究スベキ問題ナリトス、吾國ニ行ハル、地方税制度ハ附加税及自由税ヲ併用スルモノニシテ、彼地租割ト稱スルモノハ附加税法ニヨルモノナリ、彼戶數割其他雜種税ト稱スルモノハ全ク自由税法ニヨルモノナリ、然レドモ國ニヨリテハ全ク其一ヲ擇ビ他ヲ併用セザルモノアリ、然レドモ若シ國税ト地方税トハ共ニ人民ノ財力ニ出、ヅルガ故ニ國家ヲシテ反省スル所アラシメ及ビ自治團體ヲシテ濫徵ノ弊ヲ免レシメント欲セ、バ地方税ヲシテ國税ノ附加税トナサシムルニ若クハ莫キナリ、且ツ此法ニヨルハ徵收制度、上ハ中央政廳ヨリ下ハ村役場ニ至ル迄全國劃一ニ行ハレ、

極メテ簡便ナルノ利アルモノトス、然レドモ亦タ眞ニ自治ノ名實ヲ舉ゲシメント欲セ、バ各地方團體ノ財政ヲ放任シ其地方狀況ニヨリ任意ニ租税ヲ徵收セシムルハ或ハ寧ロ當然ノ方法ナルヤモ知ルベカラズ、吾日本ノ如キ既ニ地方團體ノ公債ニツキテ中央政廳ニ限制力ヲ有セシムルヨリ論ゼ、バ其主旨ヲ一貫スル爲メ租税ニ關シテモ國家ノ之レヲ制限スル必要アルモノトイフベシ、果シテ然ラバ彼區々ニ亘リ從ツテ濫收ノ虞レアル自由税法ノ如キハ寧ロ之レヲ全廢スルヲ可トス、何者地方團體ニ自治ノ行政ヲ許スハ本來之レニヨリテ國家ヲ尤モ多ク利スベシトノ思想ニ基クルモノニシテ、妄リニ地方ノ行政ヲ放任セルモノニ非ザレバナリ、

第三節 國家ノ特占事業ニヨル利得

第一款 緒論

國家ノ特占事業ヨリ生ズル收益ハ普通準租税ト稱スベキモノニシテ、正ニ國產税賦課ノ一手段ヲ構成スルモノトイフミク、從ツテ消費稅論中ニ論述スベキニ似タリト雖、其形狀ノ全ク租税ニ異ルモノアルヲ以テ特ニ之レヲ本節ニ於テ研

究スルコトナセリ、
 國家が或種ノ事業ヲ特占スルハ其必要主トシテ收入ヲ得ンガ爲メニ出ヅルモノナリト雖、專ラ收益手段トシテ之レヲ目スルハ大ニ謬レルモノナシトセズ、何者諸種ノ事業中ニハ國家ニ非ザレバ之レヲ行フコト能ザルモノアレバナリ、加之人民ニ其企業ヲ委ヌルヨリモ寧ロ之レヲ國家ノ特占事業ニ一任スルヲ以テ安全且ツ利益ナリトスベキモノアレバナリ、例セバ造幣事業ノ如キ火藥製造業ノ如キ食鹽專賣ノ如キ即チ是レナリ、
 一派ノ論者ハ政府ノ特占事業ヲ經營スルハ其目的單ニ收入ヲ得ルガ爲メニシテ他ニ意アルニ非ズ、加之一般經濟上ヨリ論ズルキハ政府ノ特占事業ハ頗ル弊害多キモノニシテ、國家ノ産業ノ發達ヲ妨碍スルコト甚ダ大ナルモノナリ、ト即チ其說ニヨレバ弊害ノ大ナルモノ大凡ソ左ノ如シ、
 一、事業ハ競争ニヨリテ進歩ス、獨占事業ハ競争ヲ禁ズルモノナリ、故ニ獨占事業ハ事業ノ改良發達ヲ阻害ス、
 一、獨占事業ハ物品ニ消費稅ヲ課スルヨリモ更ニ多クノ利得ヲ收メント欲ス

ルモノナリ、從ツテ消費者ヲシテ困難ヲ感ゼシム、
 一、事業ノ獨占ニ變ズルトキハ從來ノ労働者ハ必ズ悉ク政府ニ僱聘セララル、モノニ非ズ、從ツテ貧者ノ職業ヲ奪ヒ強イテ浮浪ノ民タラシムルモノト謂ハザルベカラズ、
 一、獨占事業ハ官吏ノ數ヲ増加シ、勢ヒ政府ノ威力ヲ盛ンナラシムルニ至ルベシ、
 獨逸ニ於テヒスマルツクが曾テフランデー專賣法案ヲ出スヤ、フェルヂナンド、ラツサールハ國會ニ於テ痛ク之レヲ駁撃シ、是レ實ニ幾万ノ労働者ヲシテ飢ニ泣カシメント欲スルモノナリト絶叫セリ、佛國政府ガ十數年前マツチノ製造ヲ特占セル時ニ方リテモ亦タ攻撃ノ勢頗ル熾ンナリキ、是レニ由リテ之レヲ見レバ特占事業ノ不當不利ナルハ必シモ全然誤謬ノ言ニ非サルベシ、
 然レモ政府ノ特占事業ヲ以テ單ニ收入ヲ求ムルニ存ズトナスハ近時ノ特占事業ヲ誤解スルモノニ非ザルカ、然リ吾人ハ競争ナキ貨物ノ高價ナルヲ認ム然リ吾人ハ利害關係ヲ有スルコトナキ官吏ニ管轄セララル、事業ノ改良發達ニ迂キチ

認ム然リ吾人ハ幾分ノ勞動者ガ浮浪ノ徒ニ變ズルアルニ至ルベキヲ認ム然レ
 ドモ吾人ハ僅小ナル物價ノ騰貴ト僅小ナル無職業者ノ出現ト然リ左程ニモア
 ラヌ改良進歩ノ阻害ト彼富者ノ專横ヲ抑制シ貧者弱者ノ規律正シキ勞動ヲ保
 維スル効益ト兩々較照シ來リテ孰レニカ適歸スベキゾ、
 若シ國家ヲシテ穀物ノ專賣ヲナスコトヲモ得セシメハ細民ノ彼相場師投機商等
 ノ買占ヨリ免ルベキ利益ハ果シテ幾許ゾヤトハ是レ曾テヒスマルツクノ腦裏
 ニ描カレタル理想ナリキ國家ノ要スル所ハ資本ナリ資本家ニ非ズ是ヲ以テ國
 家ニシテ全國ノ資本ヲ一手ニ占得スルコトヲ得並ニ之レニヨリテ文物制度ノ發
 達ヲ期セシメハ吾人ハ坐ナガラニシテユウトピアニ遊ブヲ得ベシトハ英國ノ
 政論家ガ熱心ニ主張セル所ナリキ會社取締法ハ到ル處ニ布カレ勞動條例ハ新
 舊ノ世界ニ制定セラレタリ然レモ之レニヨリテ果シテ勞動者ハ其身軀ノ保安
 ヲ得タリトスベキカ法文ト實際ト必シモ一致スベキニ非ス或ハ八時間ノ勞動
 ヲ規定セル法律ノ下ニ實際十時間ノ勞動ヲ強イラレツル人民ナシトスベカ
 ラザルナリ而シテ若シ如此キ患ヲ絶ダント欲セバ須ラク政府自カラ工場ノ持主

タルニ若クハ莫ケン果シテ然ラバ特占事業ヲ罵リテ是レ弊害百出スルノ惡制
 ナリトイフモノ未ダ決シテ眞ヲ得タルノ評語ニ非ザルヲ知ランカ、
 試ミニ思ヘ吾人ハ何故ニ吾等ノ美術家ヲシテ單ニ富者ノ客房ヲ裝飾セシメ而
 シテ衆人ノ眼ヲ娛マシメ衆人ノ心ヲ悦バシムルガ爲メニ其巧妙ナル技藝ヲ揮
 ハシメ得ザルカ昔者雅典ノ美術ハ殆ント全ク公衆ノ爲メニ供セラレタリキ而
 シテ今日ハ私人ノ爲メニセラル如此キモノハ何ゾヤ吾人ノ渴望スルモノハ巨
 大ナル圖書館ナリ宏壯ナル學校ナリ曰ク博物館ナリ曰ク公園ナリ曰ク劇場ナ
 リ而シテ如此キモノスラ尙ホ自由ニ之レヲ建設シ多數ノ人民ヲ娛マシムル能
 ザル所以ノモノハ何ゾヤ他ナシ之レヲ建設スベキ資財ニ乏シキヲ以テナリ否
 ナ資財ニ乏シキニ非ズシテ資財ノ私人ニ握ラルガ爲メナリ然ラバ資本家ハ
 獨リ國家ノ爲メニ不用ナルニ止マラズ動々モスレズ國利ヲ減削スルモノニ非
 ザルカ戰爭ニヨリテ敗レタル國家ガ其汚名ヲ雪ガントスル能ハズトセバ是レ
 其一因ハ財力ノ缺乏ニ在リトセザルベカラズ然ラバ資本家ハ時ニ國家ノ最モ
 大ナル活動ヲモ束縛スルモノト謂フベカラズヤ而シテ若シ以上ノ如キ私慾的

文明ヲ排掃スルノ勢力アルベクンバ其ハ万般ノ營業ヲ國家ノ特占ニ歸セシムルヨリ他ニ方策ナカルベキナリ、
 吾人ハ敢テ急進社會黨ノ口氣ヲ踏用セント欲スルモノニ非ザレドモ、特占事業ノ前途ニ如此キ大希望ノ繫ルアルハ蓋シ言ヲ俟タザル所ナリ、然レドモ之レヲ論ズルハ多少財政學ノ範圍外ニ超脱スルノ虞レアルヲ以テ姑ラク筆ヲ茲ニ留ムベキナリ、

方今國家ノ特占事業ヲ以ツテ汎ロク諸般ノ營業ニ及ボス能ハザルガ故ニ、本節ニ於テ吾人ハ漫ニ理想ニ奔逸スルコトヲ中止シ、之レヨリ少シク如何ナル營業カ尤モ國家ノ特占ニ適スルヤヲ論ゼント欲ス、

第二款 諸種ノ特占の事業

火藥專賣ノ事ハ殆ンド言フヲ要セズ、何者大凡ソ危險物ノ製造ハ民業ニ委ヌベキ性質ノモノニアラズ、且ツ火藥ノ如キハ其需用ノ大半政府ニ存ズレバナリ、仍リテ之レヲ省略シ主トシテ烟草專賣ニ就キテ述ベント欲ス、
 烟草ハ人民嗜好物ノ一ナレド之レニ消費税ヲ重課スルルハ、代用品ヲ生ズルノ

患少ナシトセズ、一時本邦ニ於テ蓮葉ノ代行セラレタルガ如キ其一例トスベシ、且ツ國家ノ特占事業ニ委ヌルルハ品質ヲ害スルノ虞レ少ナキモノナルヲ以テ清酒ノ專賣烟草ノ專賣ノ如キハ側ラ必スヤ人民ノ衛生ヲ損ズルノ結果乏キヲ得ルノ利便アリトス、加之烟草ノ生産ハ地方的ニシテ其區域廣大ナラズ、是ヲ以テ之レヲ取締マルノ便益モ亦タ甚ダ大ナリ、

烟草專賣ニヨリテ好結果ヲ得タルモノハ佛國ニシテ、其收入ハ實ニ驚クヘキ巨額ニ達セリ、之ニ次イテ伊太利ノ如キモ佳ナル成績ヲ有スレド、政府ノ特占事業ニ非ズシテ會社ノ專賣ニ屬スルヲ以テ全ク特占事業ノ利得トシ、茲ニ論ズル限リニ非ザルベシ、獨逸ハ數回舊專賣法案ヲ議會ニ提出セシモ通過セズ、是ヲ以テ餘ス所ノ專賣國ハ實ニ吾日本ニ止マレリ、日本ニ在リテハ從來營業免許稅ト印紙ノ貼用ニヨリテ烟草ノ消費税ヲ施行シ來リシガ、今ヤ之レヲ全廢シ代フルニ業其專賣法ヲ實施スルニ至レリ、其効果ハ未ダ必シモ著シカラザルニ似タレド、尙ホ關稅ヲ課シテ輸入ノ烟草類ヨリ生ズル收入ヲ併セハ、蓋シ悔ルベカラザルモノアルニ及ブベキナリ、

食鹽專賣ハ往々人ノ論スル所ナレド、既ニ諸國ニ於テ課稅ヲ廢除スルノ傾向アルヲ以テ、之レニヨリテ收入ヲ得ンガ如キハ頗ル批難多キヲ免レザルヘシ、要之現今國家ノ特占ニ委ヌルヲ可トスル事業ハ次ノ如キ條件ヲ具フルヲ要ス、

- 一、專賣ヨリ生ズル收入ノ見込確タルヲ、
- 一、必要品ハ不可ナルヲ、
- 一、事業ノ性質民業ニ適セザルカ、否ラズンバ簡易ニシテ官吏ノ監督ニヨルモ敢テ困難ヲ感ゼザルモノヲ撰ブベキヲ、即チ精巧ナル工業ニ屬スル貨物ノ販賣ノ如キハ不可ナリ、此點ニ於テハ佛國ノ摺附木專賣ノ如キハ特占事業トシテ適當セリ、然レハ必要品ノ專賣ニ屬スル點ニ於テ吾人ハ寧ロ之レヲ贊セザルモノナリ、

第三編 公債論

第一章 總論

第一節 緒言

國家ノ經費ヲ支辨スル爲メニ官業若クハ官有財産ノ利得及手数料並ニ租稅準租稅ヲ徵收スト雖、是等ノ收入ハ時ニ國家ノ財政ニ剩餘ヲ生シ又ハ不足ヲ生ズルヲ例トシ、必ズ收入ト支出ト符節ヲ合スルガ如キヲアラザルモノトス、蓋シ其理由ト稱スベキモノニ大約ソ三箇アリ、其一ハ國家ノ財政ハ便宜ノ爲メ一定ノ期間ヲ以テ收支ノ會計ヲナスモノニシテ其期間ニ先チ豫メ概算ヲ立テ之レニヨリテ收入ヲ計ルモノナレバ、勢ヒ豫算ト決算トノ間ニ多少ノ相違ヲ生ズルニ至ルコト即チ是レナリ、其二ハ豫算ヲ立テ全ク收入ヲ結了スルニ至ル間ニハ若干ノ時日ヲ要スルガ爲メ從ツテ物價ニ變動ヲ生シ遂ニ豫算ト決算トノ間ニ徑庭ヲ生ズルニ至ルコト即チ是レナリ、其三ハ國家社會ノ事物ハ變化極マリナク、不時ノ事變意外ノ極事往々ニシテ起ルモノナルガ爲メ到底豫定ノ收入ヲ以テ必

要ノ支出ヲ充タス能ハザルニ至ルヲ即チ是レナリ、是ヲ以テ何處ノ政府ト雖、必
 ラズ臨時ニ收入スルノ門戸ヲ準備シ補充費非常費ノ財源ニ備ヘザルモノアラ
 ザルナリ、而シテ如此キ門戸ヨリ國庫ニ流入スル尤モ大ナル財源ハ即チ普通主
 トシテ公債ノ形ヲ以テ顯ハル、

然レドモ公債ハ主タル臨時收入ノ形式ナリトイフノミ、敢テ唯一ノ形式ナリト
 云フニ非ラズ、經常費ノ補足ハ通例租税ノ税率ヲ高メ以テ之レニ充ツルヲ可ト
 シ、時ニハ非常費ト雖、官有財産ノ拂下又ハ新税ノ賦課ニヨリテ之レヲ支辨スル
 ヲ利トスル事アリ、或ハ現存スル國庫豫備金ヲ散ツテ以テ財政ノ急務ヲ救フ事
 アリ、素ヨリ事ニ大小アリ要ニ緩急アルモノ、一々之レヲ律スベキニ非ズト雖、會
 計ノ不足實ニ巨額ナルニ方リテ能ク之レガ支給ヲ完フスルノ途ハ唯一ツノ公
 債アルノミ、故ニ收支ノ關係ヨリ生ズル大問題ハ即チ公債ノ募集ニ在リトス、是
 レ第三編ニ於テ吾人が公債論ヲ叙述スル所以ナリ、

第二節 公債ノ必要

國家財政上ノ不足ニ二種アリ

- 一、表面上ノ不足
- 二、實際上ノ不足

是ナリ、表面上ノ不足又ハ出納上ノ不足ト稱スルモノハ、本來會計期間ノ一定セ
 ルヨリ生ズルモノニシテ、收入ガ納期ニ遅レ爲メニ實際不足スルニ非ザレドモ
 一時金庫ニ缺乏ヲ生ズルガ如キ場合ナイフ、實際上ノ不足トハ將來收入ノ生
 來ルベキ見込アルニ非ズ、全然國庫ノ缺乏スルヲ云フモノナリ、而シテ實際上ノ
 不足ニ種々アレドモ、豫メ測知シ得ベキ不足ト測知シ得ベカラザルモノ、二者
 ニ分類セラルルモノトス、

公債ハ實ニ此出納上ノ不足ヲ補ヒ、若クハ豫測スベカラザル實際上ノ不足ヲ充
 タスガ爲メニ起ル、蓋シ特ニ短期公債ト稱スルモノハ通例前者ノ填補ニ用ヒラ
 ルル公債ニシテ、普通國債ト稱スルモノハ實ニ後者ノ用ニ供セラルルモノナリ
 トス、

出納上ノ不足ヲ補フニ方リテ短期公債ヲ募集スルハ學者ノ異論ナキ所ナリト
 雖、實際上ノ不足ヲ充タスニ當リテ公債ニ頼ルベキヤ否ヤハ岐論紛々トシテ盡

起シ、一見頗ル疑問ナルガ如シ、試ミニ異議ノ存ズル所ニ就キ二三要點ヲ摘記セ
ンカ、

其第一説ヲ主張スル者ハ曰ク、國家ハ不慮ノ事變ニ備ヘンガ爲メ、常ニ一定ノ
豫備金ヲ貯蓄シ、以テ緩急アルニ際シ之レヲ使用スベシ、

ト、然レモ徒ラニ國庫ニ莫大ノ資金ヲ貯蓄シ更ニ之レヲ行使セサルガ如キハ經
濟上其不利ナルヲ贅辯ヲ要セザルモノアルベク、殆ンド第一説ノ如キ耳ヲ傾ク
ルノ價アルベカラザルナリ、

其第二説ヲ唱道スルモノハ曰ク、如斯キノ際ニハ政府宜クシク官有財産ノ拂
下ヲ試ムベシ、妄リニ人民ノ財力ヲ疲憊セシムベキニ非ザルナリ、

ト、然レモ國債ノ募集ハ國家ノ事變ノ際ニ生ズルヲ普通トス、是ヲ以テ收入ハ敏
速ニ舉行セラレザルベカラズ、是レ官有財産拂下ノ得テ爲シ難キ所ニ屬ス、然ル
テ況ンヤ事變將ニ發セントスルノ時ニ方リテ離カ、平時ニ於ケルガ如ク高價ニ
之レガ購求ニ應ズル者アラシヤ、

其第三説ヲ提唱スルモノハ曰ク、國家公債ニ代フルニ須ラク新稅ヲ以テセヨ、

租稅ハ必ズ國債ヲ起スヨリモ多クノ効益アラシク、何者國民ハ新稅ノ負擔ニヨ
リテ勤儉ノ心ヲ奮起シ政府ハ人民ノ苦痛ヲ察スルガ故ニ務メテ冗費ノ支出
ヲ制スルニ至ルベケレバナリ、

ト、然レモ國債ヲ以テ如此キ費途ニ充ツベシト論ズル者ハ、新稅賦課ノ説ヲ排シ
テ曰ク、租稅ノ増加ハ決シテ國家事變ノ如キ緊急ナル場合ニ應ズルヲ得ズ、加
之租稅ノ増加ハ却テ人民ノ苦痛ヲ大ナラシム、蓋シ勤儉ノ心ヲ奮起セシムトシ
辭ヲシテ假リニ眞ナラシメバ、是レ豈ニ裏面ハ國民ノ苦痛ヲ感ズルヲ大ナルノ
反證ヲ示スモノニ非ズヤト、要スルニ今日巨大ナル非常費ヲ給スルノ方法トシ
テ殊ニ事變ニ應ズルノ際ニ方リテハ、公債ノ募集ハ尤モ適好ナル制度トシテ認
メラル、ニ至レリ、

英國ニ於テハ從來數次國債ニ代フルニ所得稅ノ稅率ヲ高ムルコトヲ以テシ、彼
クリミヤ戰爭ノ費用ノ如キモ竟ニ之レニヨリテ支出スルニ及ベリ、蓋シ所得稅
ハ屈縮力ト伸展力トヲ兼用スルモノナルガ爲メ、戰亂止ミ平和克復スルニ至ル
時ハ再ヒ稅率ヲ低下スルノ便アリ、然レモ若シ所得稅ヲ以テ非常費ノ補充ニ充

ツベントセバ、豫メ平時ニ在リテ極メテ税率ヲ低クシ、所得税ヲシテ全ク填補税ノ目的ニ供シ置カシムルヲ要ス、故ニ如此キ制度ノ下ニ租税ヲ以テ國債ニ代フルハ未ダ必シモ不可ナシト雖然カモ國債ノ如キ率日租税ニ比シテ任意的ノ支辦法存ズル以上ハ、資力アル富者ヲシテ自由ニ非常費補充ノ目的ヲ達セシムルノ更ニ便ナルニ若カザルベシ、

第三節 國家ノ信用

公債ハ政府ノ臨時支出ヲ支辨セシガ爲メニ他日償還ノ目的ヲ以テ一時人民ニ向テ設定スル國家ノ債務ヲ云フ、之ヲ以テ公債ヲ起スハ猶ホ私人ノ負債ト等シク國家ニ信用アルニ非ズンバ能ハザルノ事ニ屬スト謂ハザルベカラズ、然レモ公債ヲ募集スル國家ノ信用ト私債ヲ設定スル私人ノ信用ト自ラ其性質ヲ異ニスルモノアルヲ以テ先ヅ茲ニ其差別ヲ説明スルノ要アリ、

一、政府ガ公債ヲ起スニ方リテ法令ノ完備ヲ待ツハ私債ト公債ト異ル第一ノ要點ナリ、

抑モ公債ニアリテハ先ヅ法令アルヲ要ス、公債ニ關スル一切ノ事項例セバ支

拂期限利子ノ割合等凡ベテ法令ヲ以テ之レヲ規定スルヲ必要トス、而シテ法令ノ完備セルト否トハ公債ヲ起ス信用ニ關スル所甚大ナリ、

一、租税制度ノ整頓

公債ハ結局租税ニヨリテ支拂ハル、ヲテ例トス、是ヲ以テ租税制度ノ良不良ハ公債募集ノ能力ニ影響スルヲ極メテ大ナリ、

一、公債ハ人民ヨリ募集シ人民ヲシテ償還セシム、

國家ハ公債ヲ募集スルニヨリテ(外債ハ之レヲ除ク)人民ニ債務ヲ負フモノナリト雖、之レヲ償還スルニ方リテ租税ヲ徵收スルヲ妨クズ、如此キ權利換言スレバ公債募集ニ伴フ國家ノ信用ハ實ニ國家獨特ノモノトイフベシ、蓋シ公債ハ一般國民ノ爲メニ直接又ハ間接ノ利益幸福ヲ増進スルモノナルヲ以テ現在及將來ニ於テ此福利ヲ被ムル國民ガ租税ノ徵收ヲ受ケ間接ニ國債ノ元利償還ノ責ニ衝ルハ決シテ怪ムニ足ラザルナリ、

一、私債ハ國家ノ定ムル法令ニヨリテ當事者ハ法廷ニ訴ヘテ債務ノ履行ヲ要求スルヲ得、公債ニ在リテハ(姑ク除外ス)國家ハ如此キ要求ニ服從

スルノ義務ヲ有セズ、故ニ國家ハ又タ償還ノ無期限ナル公債ヲ募集スルヲ得、
 國家ノ信用ハ其權力ノ主幹ナル觀念ヨリ發生スルヲ以テ私人ハ國家ヲ強制シテ債務ノ履行ヲ求ムルヲ得ザルナリ、是レ亦タ私人ノ信用ト國家ノ信用ト異ル所以ノ一ナリトス、

第四節 經濟上ニ及ボス公債ノ効果

公債ハ既ニ國家ノ支出ヲ支辨センガ爲メニ要スル租稅ヲ負擔シタル人民ニ向テ、別ニ其資力ヲ徵發スル一種ノ方法ナルヲ以テ其效果ノ一般經濟上ニ及ブ所甚ダ大ナラザルヲ得ザルモノトス、然レモ本來國家緊急ノ必要ニ充テラルベキ財源ナルヲ以テ、其經濟上ニ及ボス害惡如何ニ大ナルトモ之レガ爲メニ公債ノ募集ヲ廢スベキニ非ザルハ明カナリ、唯本節ニ於テハ公債ガ普通如何ナル影響ヲ有スルモノナルカ、單ニ其大要ヲ觀ハントスルニ止マルモノト知ルベシ、
 公債ハ一時ニ私人ノ巨額ナル資力ヲ徵收スルモノナルヲ以テ、租稅ノ社會ニ及ボス影響トハ大ニ其趣ヲ異ニス、租稅ハ通常私有財產特ニ私人所得ノ一部分ヲ

減削スルニ止マル、然レモ公債ニ在リテハ普通私人ノ財產資本ニ及ンデ之レヲ減削スルヲ例トスルナリ、是ヲ以テ公債ノ募集ハ必ズ一時國民ノ生産力ヲ妨ゲ産業ノ進歩ニ障害ヲ加フルヲ免レズトイフベシ、
 加之國債隨ツテ大ナレバ隨ツテ將來之レガ償還ニ要スル租稅ノ負擔ヲ重カラシムルヲ以テ公債ハ一時人民ノ巨額ナル財產ヲ奪フノミナラズ、永ク其所得ノ一部分ヲ減削スルモノト謂ハザルベカラズ、
 然レモ公債ハ再ヒ募集ニ應ジタル資本ノ償還ヲ得セシメ、確實ニ其資本ニ對スル利子ヲ拂フヲ以テ、租稅ト其性質ヲ異ニス、是亦タ素ヨリ言フヲ待タズ、
 然レモ國家ハ割合ニ私人ヨリモ利益アル條件ヲ以テ公債ヲ募集シ、低利ヲ以テ巨額ノ資本ヲ利用スルモノナルヲ以テ、其減削セラレタル資本ハ之レヲ他ノ生産事業ニ使用スルニ比シテ利益ノ收入甚ダ少ナキハ爭フベカラズ、然ルヲ况ンヤ公債ノ利息ハ又タ租稅ニヨリテ人民ノ負擔スルモノニ屬スルヲヤ、
 是ヲ以テ公債ヲ使用スル費途ニシテ經濟上有利ナル事情存ズルニ非ザレバ、公ノ社會ヲ毒スル所實ニ著大ナルモノアリトイフベシ、從ツテ從來官有財產債

ヲ拂下ケテ國債ノ償還ニ充當スベキヲ主張スル者頗ル多キニ至レリ、然レモ此ハ既ニ第二編ノ始メニ於テ一々論サタル所ナルヲ以テ今爰ニ之レヲ贅セザルベシ、

公債ノ經濟上ニ及ボス効果如此キモ、アルヲ以テ、公債ハ外國債ヲ可トスベシトノ論議ヲ生ズ、乃チ以下其利害得失ニ就キテ攻究スル所アラント欲ス、

内國債及外國債ノ得失

内國債外國債ノ由リテ岐ル、標準ハ實ニ其募集ニ應ズル主幹即チ債權者ノ内國臣民ナルカ將タ外國人ナルカノ一點ニ在リ、是ヲ以テ内地ニ於テ外人ヲシテ公債ノ募集ニ應ゼシムルモ亦タ内債タルヲ過ラザルナリ、是ヲ以テ外人ヲシテ公債證券ノ所有權ヲ有セシムル國ニ在リテハ、内外人民交互ノ間ニ賣買交換セラレ實際ニ於テ政府ノ公債ハ其種目ノ何タルヲ問ハズ、内債ト外債ト二者ヲ兼ヌルニ至ルベキモノトス、

内債ニシテ其金額ノ極メテ輕微ナルモノ例セバ短期公債ノ如キハ人民ノ所得

ヲ以テ之レニ應ズルヲ得ベキヲ以テ、特ニ論究スルノ必要ナシ、又タ國民ノ資本ニシテ使用ノ途ニ苦シムガ如キ狀況ニ在ルモノナラシメバ、公債ノ募集ハ何等ノ弊害ヲ生ゼズト雖、苟モ金額巨大ニシテ而シテ民間亦タ遊金ナキ場合ニ起サレタル内債ニ至リテハ既ニ前段ニ於テ述べタルカ如キ弊害ヲ伴フコトハ蓋シ争フベキニ非ザルナリ、是ヲ以テ内債ニ代フルニ外債ヲ以テスベシトノ論議盛シナルニ至ル、

抑モ外債ハ外人ノ資本ヲ減少スルモノナレバ國內ノ生産力ヲ直接ニ減削スト謂フベカラズ、又外債ニヨリ外人ニ支拂フ利子即チ利息ノ流出ノ如キモ、資本ニ對スル相當ノ報酬ニシテ、毫モ患フベキ現象ニ非ザルナリ、故ニ生産事業ノ爲メニ公債ヲ起ス場合ニアリテハ外債ノ内債ニ勝ルハ殆ンド確乎トシテ争フベキノ餘地ヲ有セザルニ似タリ、然レモ外債ハ獨リ其使用ノ目的必ズ生産事業タルヲ要スルノミナラズ、又タ大ニ起債國國民ノ性質及其國家ノ信用如何ニ省慮スル所ナルベカラザルナリ、踴勉ニシテ貯蓄心ニ富ム國民ノ如キハ所謂外債ヲ起スニ耐ユベキモノナリト雖モ遊惰ニシテ驕奢ニ耽ル國民ノ如キハ到底外債ヲ

舉クルニ適シタルモノト謂フベカラザルナリ、加之國家ノ信用極メテ薄弱ナルトキハ勢ハ公債ノ利息ヲ高クシ若クハ其他歴史上吾人ノ知ルガ如ク一定ノ擔保ヲ供セザルベカラザルノ弊アルヲ以テ、斯カル状態ノ下ニ外債ヲ募集スルハ寧ロ言フニ忍ビザルノ結果ヲ生ズベシ、合衆國、濠太利ノ如キハ外債ニヨリテ成効シタル國家ノ實例ナリ、然レドモ埃及ノ如キ西班牙ノ如キ又近ク支那ノ如キハ既ニ失敗シ若クハ必ズ將サニ失敗セントスル國例ヲ示スモノト謂フベキノミ、

是レニ由リテ之レヲ觀レバ比較的の利益アル條件ヲ以テ、鐵道ノ如キ築港ノ如キ有利事業ニ向テ起サレタル勤儉國ノ外債ハ必ス其内債ニ比シテ優ルモノアルヤ明カナリ、然レドモ軍備擴張ノ如キ不生産的經費ニ充テシテ優ルモノアルストセバ、是レ自カラ其財政ヲ危地ニ擠スルモノ、愚モ亦極マレリト謂ハザルベカラズ、

第五節 公債ノ分類

公債ハ種々ノ標準ニヨリテ雜多ノ分類ヲ生ズ、試ミニ其重要ナルモノヲ掲グベ

シ、

一、内國債及外國債

是レ前章ニ於テ説明セル處ナリ、即チ債權者ノ内國人ナルカ將タ外國人ナルカニヨリテ區別セラル、モノトス、

一、任意公債及強迫公債

任意公債トハ人民ノ任意ニ應募スルヲ得ル公債ノ意ニシテ強迫公債トハ全ク之レニ反スル公債ヲ云フ、即チ募集ノ性質ヨリ生スル類別ト見ルヘシ、

一、擔保附公債及無擔保公債

是レ讀ソテ字ノ如ク政府カ公債ニ擔保物ヲ附シテ發行スルト否トニヨルノ類別ナリ、

一、利息附公債及無利息公債

公債ニ利息ヲ附スルト否トニヨリ生ズル類別ナリ、

一、確定公債及流動公債

公債ハ又タ其整理上ノ形式ヨリシテ確定ト流動トノ二者ニ類別セラル、而シテ

此類別ハ以上諸種ノ分類中尤モ太切ナルモノトス、以下順次各種ノ公債ニツキテ説明スベシ、

第二章 各種ノ公債

第一節 任意公債及強迫公債

任意公債トハ國家ガ公債ヲ募集スルニ方リテ其方法ノ如何ニ拘ハラズ、國民ニ對シテ應募ヲ強イザルモノヲ云フ、如此キ公債ノ多數ハ普通ノ公債ナリ、然レドモ中ニハ全ク形式上國民ノ自由ヲ認ムルモ實ハ幾分強迫ノ意味ヲ有スル公債ナシトセズ、例セバ戰時ニ際シ特ニ國民愛國ノ念ニ訴ヘ以テ其募集ノ目的ヲ達セント試ムル公債ノ如キハ名ヲ任意ニ藉ルモ其實稍強迫公債ニ邇キモノト謂フベシ、

強迫公債ハ國民ノ自由意思ヲ許ルサマル公債ニシテ如此キモノ、一ハ不換紙幣ノ發行ナリ、又彼各人ニ割當ヲ強制シテ募集スル割賦公債ト稱スルモノ、如キモ然リトナス、

強迫公債ノ利便ナル點ハ其必ク所要ノ收入ヲ得ベキト並ニ其通態トシテ利息

ヲ附セザルトヨリ生ズル國庫ノ利益ニ在リト雖、其弊害ハ遙カニ利益ニ過クルモノアリテ存スルガ爲ノ、近來諸國ニ於テ漸次其跡ヲ絶ツニ至レリ、然レモ特ニ不換紙幣ノ如キハ之レヲ利用スルトハ莫大ナル効益ヲ有スルモノニシテ租稅モ通常公債モ國家ノ支出ヲ給スルト能ハザルニ方リテハ、實ニ此方法ニ頼ラザルベカラザルノ必要アリト謂フベシ、適莫不換紙幣ノ發行ハ斷ニ万止ムヲ得ザルノ時ニ限ラル、モノナレバ、決シテ妄リニ此方法ヲ試ムベカラズ、若シ誤リテ之レヲ濫用シ、不換紙幣ノ増發ヲ效サンカ、物價ハ變動極マル所ナク、正貨流出シ、經濟ノ基礎搖亂シテ投機心盛ニ起リ結局國家ヲ擧ゲテ破産セシメズンバ止マザルニ至ル、是レ豈大ニ警戒ヲ要セザル可ケンヤ、

不換紙幣ノ害惡如此シ、割賦公債ノ不當不利ニ至リテモ亦タ疑ヒナキモノアリ、本來割賦公債ナルモノハ其性質租稅ニ異ラズ、而シテ寧ロ其資本ノ一部ヲ減削スル點ニ於テ租稅ヨリモ更ニ一層人民ニ加フル壓力ノ大ナルモノタルノミナラズ、公債ヲ募集スルノ必要ハ抑モ國家有事ノ際ニ多キヲ以テ、精密ニ人民ノ財力ニ比例セシムル如キ暇ヲ有セザルナリ、是ヲ以テ公債割賦ノ結果不公平ニ流

ル、ハ勿論公債ニ應ズル資力ナキ細民ノ財産ヲモ徵發スルモノナレバ生計ノ困弊得テ知ルベカラザルモノアリ、故ニ不換紙幣及割賦公債ノ如キハ何人モ其不利不當ナルヲ争フ者アラザルニ至レリ、然レモ強迫公債中ニハ又實ニ止ムヲ得ザルモノアリテ存ズ、例セバ保證金ノ如キ即チ其一ナリ、保證金ハ其性質普通ノ公債ト異リ其方法モ大ニ特別ノ形式ヲ有スルモノナレモ、將來政府ハ保證金ヲ下ケ渡スノ義務ヲ有スルモノニシテ如此キ義務ハ又是レ國家ノ人民ニ對スル一種ノ債務ナルヲ以テ之レヲ公債ナリト謂フハ素ヨリ正當ノ解釋タラズンバアラズ、而シテ保證金ノ強迫的公債ナルヲモ甚ダ明カナリ、何者國家ハ一定ノ人民ニ對シ、特ニ保證金ヲ納ムルヲ命ズレバナリ、

又タ彼國庫ノ必要上徵收期ニ先チテ徵收シタル租稅ノ如キモ、其徵收期ニ至ル迄ハ公債ト稱スベキモノニシテ、如此キ租稅ノ納附ハ人民ノ任意ニ非ザルヲ以テ又タ明カニ強迫公債ノ一種ト言ハズンバアラザルナリ、

第二節 擔保附公債及無擔保公債

擔保附公債トハ國家が一定ノ財産ヲ公債ノ償還若クハ利息ノ支拂ニ向テ擔保トシ以テ募集スル公債ヲ云フ、昔時專ラ行ハレタル公債ニシテ國家ノ權力威力並ラヒ行ハレズ、又タ公債ノ觀念發達セザリシニ由ルモノナリ、是ヲ以テ現今擔保附公債ハ殆ンド全ク外國債ニ限ラル、ヤノ觀アリ、蓋シ外債ニハ往々擔保附ノモノ少ナカラズ、彼ノ清國ノ外債ノ如キハ實ニ其好例ヲナスモノトイフベシ、

無擔保公債ト稱スルモノハ通常單ニ公債ト稱スル多數ノモノニ外ナラズ、蓋シ公債ハ擔保附ヨリ無擔保的ニ進化シ來リシニ似タリ、而シテ素ヨリ國家ノ觀念公債ノ觀念大ニ舊時ト異ルニ至レルモノ、其基因ナルベクレド、又ターハ近時ノ國家ガ憲法政治ヲ布クニ至リシコトモ與カリテ力アリト謂ハザルベカラズ、凡ソ財政ノ事項ガ立憲政治ト共ニ長足ノ進歩ヲナセシハ掩フベカラザルヲナリ、而シテ公債ノ如キハ蓋シ其著シキモノ、一ナリトス、蓋シ專制政治ノ時代ニアリテハ、國家ノ權力ハ無限ニシテ、國王ハ生殺與奪ノ權ヲ有シタルヤモ知ルベカラザレモ、人民ニ對スル國家ノ信用ハ頗ル薄弱ナルヲ免レザリシナリ、而シテ其

始メテ國家ノ信用重ンゼラル、ニ至リシハ正ニ國民ノ參政權ヲ得タルノ日ニ
 濫觴セリ、乃チ今日ノ人民ハ立法議會ニ參列シテ自由ニ財政ノ事ヲ討議スルノ
 權ヲ得タルヲ以テ、最早ヤ國家ガ公債償還ノ義務ヲ果タスヘキヤ否ヤヲ狐疑ス
 ルノ必要ヲ有セザルニ至レリ、彼無擔保附公債ノ汎ロク行ハル、ニ至リシモ亦
 タ多ク此時ニ於テス、

第三節 利息附公債及無利息公債

利息附公債ハ廣義ニ於テ之レヲ解スレバ、利息若クハ之ト共ニ割増金ヲ附スル
 公債ニシテ、無利息公債ハ全ク其孰レヲモ附セザルモノヲイフ、強迫公債ハ殆ン
 ド悉ク無利息公債ニシテ、任意公債ハ通常利息附ナリ、
 抑モ公債ニ利息ヲ附スルハ當然ノ事ニシテ、苟モ人民資本ノ一部ヲ奪ウテ之レ
 ナ國事ニ費消スルモノナレバ彼無利息公債ノ如キハ寧ロ國家ガ不當ノ利得ヲ
 貪ルモノト云フモ過言ニ非ザルナリ、然レモ公債ノ主眼トスル所ハ先ヅ國家ノ
 支出ヲ給スルニ存ズ、是ヲ以テ必シモ人民ノ便益ヲノミ計ルノ暇アラザルナリ、
 然レバ其利息ノ如キモ國家ハ其固有ノ信用ヲ利用シ、成ルベク之レヲ低カラシ

ムルヲ得策トス、且ツ國債ノ償還ハ遠ク將來ニ及ブモノタルノミナラズ、國富ノ
 増進ト共ニ一般ニ金利低減ノ傾向アルヲ以テ豫メ之等ノ事情ヲ斟酌スルノ必
 要アリ、加之國債ノ利息ハ直接ニ政府ノ支拂フモノナレモ實ハ其財源一般人民
 ノ負擔スル租稅ニ在ルヲ以テ、利息ノ高率ナルハ却テ人民全般ノ不利益ナリト
 謂フヲ得ベシ、然レモ餘リニ低利ニ失スルハ國債募集上ニ困難ヲ生ズルヲ以
 テ、立法者ハ宜ロシク其中庸ヲ過ラザルヲ期スベキナリ、
 彼割増金ヲ附スルハ蓋シ利息ヲ低カラシムル効益アルモノナレモ其弊害モ亦
 少ナカラザルヲ以テ汎ロク行レ難シ、(後段割増附公債參照)

第四節 確定公債及流動公債

第一款 確定公債ソリッド・デットト流動公債フローティング・デットトノ差異

公債ハ確定ト流動トノ二類ニ分タル、今其差異ノ重モナル、モノヲ看ルニ大約ソ
 左ノ如シ、

- 一、確定公債ハ財政上ノ公債ニ限ルモノニシテ全ク行政上ノ公債ヲ含マズ、流
 動公債ニ至リテハ此制限ナシ、即チ財政上ノ公債タルト行政上ノ公債タル

ト毫モ關係ナキヲ云フナリ(行政事務執行ノ際生ズル不足ニ對スル公債ヲ行政上ノ公債ト云ヒ其否ラザルモノヲ財政上ノ公債ト云フ)

一、確定公債ノ償還期限ハ概シテ永久ニ亘リ或ハ無期限ナルヲ例トス、流動公債ハ之レニ反シテ有期ニシテ然カモ短カシ、

一、確定公債ニ在リテハ利息ノ支拂償還ノ順序整然タリ、流動公債ハ之レニ反シテ甚ダ秩序ナシ、

一、確定公債ハ私人償還請求ノ權利ヲ認ムルヲ極メテ稀少ナレド、流動公債ハ之レニ反シテ私人ノ請求權ヲ認ムル範圍廣大ナルヲ例トス、

一、確定公債ハ確固タル支出ヲ支辨スル目的ノ爲メニ募集セラル、流動公債ハ之レニ反シテ一時ノ收支ヲ適合セシムルヲ以テ主眼トナス、

第二款 確定公債

確定公債ハ分チテ

- 一、有期確定公債
- 二、無期確定公債

ノ二箇トナリ、有期確定公債ハ更ニ分チテ

(イ) 割増附公債 (ロ) 年金 (ハ) 定期公債

ノ三箇トナル、無期確定公債ハ更ニ分チテ

(イ) 永期確定公債 (ロ) 無期確定公債

ノ二箇ナル、永期確定公債ハ等シク無期公債ト共ニ豫メ償還ノ期限ヲ定メザルモノナレド、必ズ將來ニ於テ償還スルノ日アルベキヲ約スルモノナリ、純全タル無期公債ニ至リテハ毫モ償還ノ日アルヲ約セザルモノナリ、是ヲ以テ償還セラル、ヤ償還セラレザルヤハ全ク測知スベカラザルモノトス、

公債ノ償還期限ヲ定ムルモノ即チ有期公債ト償還期限ヲ定メザルモノ即チ無期公債ト孰レカ確定公債ニ適スルヤハ多少説明ノ勞ヲ執ルベキ問題ナルガ故ニ、簡單ニ其利害得失ニツキテ茲ニ攷究スル所アルベシ、

有期公債ヲ主張スル者ノ說ニ曰ク、公債ノ償還ニ期限ヲ存セシムルト否トハ募集ノ難易ニ關係スル所頗ル大ナリ、公債ニ償還期限ヲ約スルハ國家ハ之レヲ約セザルモノニ比シテ必ズ利益アル條件ヲ以テ募集ノ目的ヲ達スベク、

且ツ債權者モ一定ノ期限後再ヒ其資本ヲ回復シテ之、レヲ生産事業ニ使用スルノ便ヲ得ベシ、

ト、無期公債ヲ主張スル者ハ之レニ反シテ曰ク、

有期公債ヲ募集スルハ國家ハ自己ニ不便ナルモ、方リテモ強イテ之レガ償還ノ方法ヲ講ゼザルベカラズ、無期ニ至リテハ如此キ鉗束ヲ受クルコトアラザルナリ、即チ國家ハ其財政上便宜ノ時期ニ於テ償却スルコトヲ得ルノ利便ヲ有ス、且ツ債權者タル人民ノ方面ヨリイフモ其資産ハ永久確實ニ一定ノ利息ヲ收入スルノ財源トナレルノミナラズ、自由ニ公債證書ヲ市場ニ賣却シテ資本ヲ回收シ得ルヲ以テ毫モ不便ヲ感ズルコトアラザルモノトス、

要スルニ國債ナルモノハ有期公債トスルヨリ無期公債トスルヲ勝レリトストノ說寧ロ當テ得タルニ近シ、且ツ各國ノ實例ニ照ラスモ其公債ノ大部分ハ無期公債ニシテ人民モ亦之レヲ欲スルモノニ似タリ、

第一項 有期確定公債

(イ) 割増附公債

割増附公債トハ一定ノ期限後ニ至リテ元金ヲ支拂フコトヲ約シ而シテ利息ニ至リテハ全ク其支拂ヲ一定セザル公債ヲ云フ、而シテ普通償還セラル、金額ハ最初應募ノ當時支出セル元金ヨリ下ラザルモノニシテ、其利息ノ不定ニ支拂ハル、ト云フハ抽籤法ヲ行ヒ、當籤者ニ向テ之レヲ支拂フヲ云フナリ、

此種ノ公債ハ國家ノ信用少キモ、又ハ國家財政上目前焦眉ノ急ヲ救フトキニ利便ナリトセラル、モノナリ、何者當籤者ハ普通ノ公債ヨリモ巨額ノ利息ヲ得ルヲ以テ、投機的ノ心ニ動かサレ募集ニ應スルノ傾向アレバナリ、然レモ割増附公債ノ弊害ハ到底其利益ト償フコト能ハズ、何者國家ガ此種ノ公債ヲ募集スルトセバ、勢ヒ國民ノ投機心ヲ挑發シ、實着ナル貯蓄心ヲ妨害スルニ至レバナリ、且ツ國家モ之レニヨリテ必シモ利益ヲ得ルニ非ズ、然ルヲ况ンヤ如此キ窮策ニ出デザルモ能ク、國家ノ支出ヲ給スルノ途存ズルヲヤ、即チ其途トハ多少公債ノ利息ヲ引上グルコト是ナリ、仍リテ方今割増附公債ハ學者ノ甚ダ批難スル所トナレリ、然レモ割増附公債ガ諸國ニ於テ漸ク盛ニ行ルベキ傾ヲ有スルハ事實也

(ロ) 年金

年金ニ二種アリ一ハ一時年金ニシテ他ハ終身年金是レナリ、共ニ國家ノ私人ニ支拂フベキ債務ニシテ或一定ノ期間内ニ其豫定方法ニヨリ漸次元利ヲ償却スルモノタルニ至リテハ一ナリ、

一時年金ハ終身年金ノ如ク永期ニ涉リテ支辨セラレズ、一定ノ期間内ニ償却セラル、ヲ以テ債權者ハ動々モスレバ之レヲ浪費シ盡スノ傾ナシトセズ、又國家モ之レヲ支拂フガ爲メニ巨額ノ經費ヲ要スルヲ以テ之レヲ廢止スルヲ利トスルノ説盛ンナリ、然レドモ終身年金ノ如キモ等シク此弊アルヲ免レズ、是ヲ以テ一般ニ年金ヲ減縮スルノ趨勢ヲ來スニ至レリ、

(ハ) 定期公債

定期公債ハ利息ノ支拂元金ノ償却ヲ所定ノ期限ニ行フモノナレドモ其償却ハ抽籤ニヨリテ順序ヲ定ムルモノナルヲ以テ、債權者中辨濟ヲ受クルニ遲速ヲ生ズルヲ免レズ、蓋シ定期公債ハ有期公債中ノ冠タルモノニシテ、假令償却ニ遲速ヲ生ズルモ毫モ人民ノ投機心ヲ挑發スルノ結果アラザルモノトス、

第二項 無期確定公債

無期確定公債ニ永期公債ト純全タル無期公債トノ二アリ、而シテ其何レヲ利トスベキカニ就キテ議論相岐ル、要點ヲ摘載セバ大約ソ次ノ如シ即チ、

(イ) 永期公債ハ國家ノ財政複雜ナラザル時若クハ公債ノ金額小ナルトニ適シ、(ロ)之レニ反シテ無期公債ハ財政複雜ニシテ公債ノ金額大ナルトニ適當ス、

蓋シ永期公債ハ償還期限定マラザルモ、必ズ何時カハ之レヲ償却スベキトアルヲ約スルヲ以テ、國家ノ財政複雜ナラズ又其金額小ナルトハ、政府ハ能ク其公約ヲ履行シ債務ヲ免レ得ベキモ、其否ラザルニ於テハ、政府ガ責任ヲ果タスコトハ頗ル困難ナルモノアリト謂ハザルベカラズ、然レモ純全タル無期限公債ニ至リテハ能ク此困難ヲ排除シ得ルモノナリ、何者之レニ在リテハ唯永久ニ利子ヲ支拂フコトヲ約スルノミニシテ決シテ償還ノ義務ヲ負フコトヲ斷言スルモノニ非ザレバナリ、抑モ國家ノ經費ハ開明ノ進歩ト共ニ益々増加スルノ傾向ヲ有スルモノニシテ、諸般ノ制度文物ニ國家ノ爲スベキ事業ハ年々逐ウテ駁々トシテ増進スルノ趨勢アリ、是ヲ以テ財政上成ルベク自ラ求メテ拘束セラル、コトナキ態度ヲ執ルハ、實ニ今日ノ國家ニ利便且ツ必要ナルモノタレバナリ、且ツ既ニ前陳セル

が如ク私人ハ決シテ償還ノ有無ヲ問ハザルモノニシテ、寧ロ一定確實ニ利息ヲ支拂ハル、ヲ以テ満足スルモノナルガ故ニ、純全タル無期限公債ハ國家及人民双方ノ便益ヲ有スルモノト謂フヘシ、抑モ公債證書ノ價格ハ主トシテ國家ノ信用如何ニヨリテ保タル、是ヲ以テ永期公債證書ハ必シモ無期公債證書ノ市場價格ヨリモ常ニ高價ナルニ限ラズ、然レバ人民ハ無期公債證書ヲ賣却シ是レニ投資タル資本ヲ回收スルニ當リテ、毫モ不利ナル境遇ニ立ツモノニ非ザルナリ、故ニ近來國家ノ公債ヲ募集スルニ方リテハ純全タル無期限公債ニヨルヲ通常トシ、寧ロ永期公債ニヨルヲ例外トスルノ觀アルニ至レリ、

第三款 流動公債

流動公債ハ普通金額小ニシテ其目的モ國家一時ノ收支ヲ適合スルニ在ルヲ以テ、之レニ屬スルモノハ、短期公債紙幣其他保證金納期ニ先ツ租稅ノ徵收、支拂期ニ後ル、支出、驛遞局貯金ノ類ヲ云フ、
流動公債ハ如此ク財政上及行政上ノ公債ニ亘ルモノニシテ、彼保證金納期前ノ徵收、貯金、官吏俸給ノ支拂期ニ遅レタルモノ等ハ所謂行政上ノ公債ニ屬スルモ

ノナリ、而シテ短期借入、大藏省證券、紙幣等ハ即チ財政上ノ公債ニ入ルモノトス、行政上ノ公債ニ至リテハ一々説明スルニ足ルモノナシ、茲ニハ主トシテ財政上ノ公債ニ屬スル部類ニツキテ其必要ナルモノヲ摘記スヘシ、

(一) 短期借入

短期借入トハ普通銀行ヨリ國家ノ一時借入スルモノニシテ、例セバ日本銀行ヨリ交互計算上ノ借入等ヲナスガ如キ是レナリ、

(二) 利息附短期公債

定期確定公債ヨリモ更ニ一層期限ノ短カキモノトス、其性質ハ確定公債ニ異ラザルモノナリ、本來流動公債ハ利息附ナラザルヲ通常トスルモノナレ、此公債ハ特ニ利息ヲ附スルモノニシテ流動公債中特種ノ地位ヲ有スルモノナリ、

(三) 大藏省證券及其他ノ國庫ニ對スル支拂命令
之等ハ短期公債ノ一種ニシテ現今日本ニテハ其最大期限ヲ一年トセリ、利息附ナルモノト無利息ナルモノトアリ、而シテ其募集ノ目的ハ國家ノ經常費ヲ一時増加スル國庫ノ不足ヲ補フニ在リ、又之レ等ノ公債ヲ支辨スルニハ普通經常收

入ヲ以テス、然レモ其金額ノ多少ハ財政ノ狀態ニヨリテ一定セザルモノナリ、大藏省證券ハ蓋シ短期ノ公債ニハ恰好ナル制度ナレモ、素ヨリ無利息若バ極メテ低小ノ利息附ナルヲ以テ、往々ニシテ濫發ノ弊アリ、爲メニ諸國ノ法制ニ於テ豫算ヲ以テ發行最大限ヲ定ムルトナリ居レリ、

(四) 紙幣

紙幣ハ分チテ

一、兌換紙幣 二、不換紙幣

ノ二トス、兌換紙幣ニシテ強通性ヲ有スルモノト否ラザルモノトアリ、不換紙幣ニ於テモ亦同シ、凡ベテ強通性ヲ有スル紙幣ハ強迫公債ニ屬スベキモノナリ、然レモ其任意的ナルト強迫的ナルトヲ問ハズ、共ニ流動公債ニ屬スルトモ亦タ明カナルベシ、何者國家ハ早晚之レヲ回收スルヲ欲シ且ツ其發行ノ金額モ頗ル不定ナルヲ以テナリ、

紙幣發行ニツキテハ諸種ノ方法アリ、而シテ本邦ニ於テ兌換紙幣ヲ發行スルノ法ハ保證準備法ニヨルモノニシテ、日本銀行ニ發行ノ特權ヲ賦與シ、一定ノ保證

準備例セバ正貨公債證券等ニ對シテ紙幣ヲ發行セシメ兼テ又タ一定ノ利息ヲ支拂ヒ以テ此制限外ニ兌換券ノ發行ヲ許ス者ナリ、然レモ歐米諸國ニアハ尙ホ諸般ノ發行法ヲ設クル者アリ、今マ茲ニ一々之ヲ説明スルト能ハズ、且ツ之ヲ説明スルハ貨幣學ノ範圍ニ亘ルノ嫌アレバ宜シク之レヲ避ク可テ穩當トス、紙幣中特色ヲ有スルモノハ不換紙幣ナリ、不換紙幣ハ國家ガ無限ノ信用ヲ有スルルル及ヒ紙幣ノ發行ガ經濟社會ノ真正ノ需用限度ヲ超越セザルル外ハ發行スベカラザルモノナリ、然レモ政府財政上ノ必要ヲ充タスニハ、尤モ簡便ナル收入方法ナルヲ以テ、古來國家ノ危急存亡ニ際シテ數次發行セラレタルアリ、而シテ發行ニ方リテ一般ノ需用ヲ適度ニ供給セルヤ否ヤ容易ニ測度シ難キ事情アル爲メ勢ホヒ濫發ノ弊ヲ生シ、其結果國家モ人民モ共ニ巨大ナル損失ヲ受クルヲ例トス、何者不換紙幣ハ紙幣ヲ以テ本位貨幣トスルモノナルヲ以テ、次第ニ硬貨ハ市場ヲ驅逐セラレ、其局外國ニ流出スルニ至ル是レ惡貨ノ良貨ヲ排斥スル原則ニヨリテ免レサルノトトス、而シテ正貨從ツテ流出スレバ從ツテ社會ノ通貨ニ對スル需用ハ増加スルヲ以テ、勢ホヒ更ニ又紙幣ノ發行ヲ試ミザルベカ

ラズ、如此クシテ隨ウテ惡貨ヲ出セバ從ツテ國外ニ流出シ其局内國ニ正貨ヲ止メザルニ至ル事態既ニ如斯キニ方リテハ最早ヤ万般ノ交易ハ不換紙幣ヲ以テ支拂ハレザルベカラズ、是ヲ以テ外ハ貿易窘縮シ内ハ産業振ハズ、國家ノ信用ハ泥土ニ委セラレ、人民ノ財産ハ投機ノ用ニ供セラルノミ、乃チ國ト民トチ擧ゲ困難ノ極ニ擠セシムルニ至ルベシ、故ニ政府ハ紙幣ヲ發行スルモ直チニ之レヲ償却スルノ途ヲ講セザルベカラズ、而シテ其償却ニ至リテハ紙幣ノ市場價格ノ甚シク下落セルルハ速時ニ之レニヨリテ支拂フテ當トシ、若シ其價格甚シク下落セザルルハ漸次之レガ回收ヲ計ルヲ便トス、蓋シ紙幣ノ償却其度ヲ失スルルハ硬貨本位回復ヨリ生ズル爲替相場ノ亂高ヲ生ズルノ虞レアレバナリ、

附言

財政學ハ第四編トシテ財務行政ニ關スル事項例セバ豫算ノ作成、支拂行政、財産ノ管理、決算、會計検査、收稅資本ノ保存カネトキ、官有財産ノ保存ノ如キ納稅ノ時期等ニ就テ綿密ニ述ブルヲ可トスレ、之等ノ中既ニ各編ニ亘リテ略ホ其要領ヲ論述シタル者アリ、又タ其幾分ハ行政學ノ範圍ニ侵入スルノ嫌アルヲ以テ之ヲ省略ス、

外編 財政學史畧要

第一、第十六世紀以前ノ財政論

抑モ人類ハ經濟的動物ナルヲ以テ、凡ソ人類ノ聚合體ヲ成ス所、何處ニ適クトシテカ經濟ナカラシヤ、是ヲ以テ家族ニ在リテハ家政トナリ、部落ハムレットニ在リテハ部落ノ經濟トナリ、自治體ニ在リテハ地方財政トナリ、國家ニ在リテハ國家財政トナル、太古ノ社會ナルヲ以テ財政ナシト思フ勿レ、文明ノ進歩セザリシ國家ナルヲ以テ公共經濟ナシト思フ勿レ、埃及ニモ必ズ財政アリシナリ、巴比倫ニモ必ズ財政アリシナリ、而シテ財政ノ存セシ所ニハ必ズ財政論アリシハ、又タ決シテ疑フヘカラザル所、只ダ不幸ニシテ、歴載數千、太古ノ事跡空シク湮晦ニ歸スルヲ以テ、今ヨリ之レヲ知ルニ由シナキノミ、

蓋シ希臘ニ在リテゼノフホン、アリストトーテレス等ガ財政ノ議論ヲ立テタルトハ、彼等ノ斷簡零墨ニヨリテ、今人ノ知ル所ニ屬ス、然レモ社會ノ狀態ノ簡單ナリシト學理的研究ノ發達セザリシトハ、能ク之等ノ名家大哲ヲシテ財政ノ原理ヲ

發見スルニ及バシメザリシ也、是レ素ヨリ當サニ然ルヘキノ事ニシテ深ク怪ムニ足ラズ、其後降リテ中世ニ至リテハ神教哲學派ノ學者就中ボーナルド、アクイナス等ノ著書中ニハ間、法律政治ニ且ツ多少財政ニ關シテ説ク所ナキニ非ズ、然レモ財政ハ中世ニ在リテ著ルシキ發達ヲナシタルコトアラザリキ、今日ノ國家經費ニ關シテ羅馬ノ制度ガ影響ヲ與ヘタルコト大ナリ、ハ學者ノ唱フル所ナリ、又今日ノ租稅ガ日耳曼ノ侯國ニ於テ行レタル獻金(Danegeld)寄附金等ニ負フ所多キモ人ノ知ル所ナレモ、中世時代ノ大半ハ等族の時代(又ハエボツヘデヤステーンヂツシエンゲゼルシヤフド)ヲ以テ蔽ハレ、國家ノ發達甚タ振ハザリシヲ以テ、財政ノ進歩モ著シカラズ、又タ之レニ關スル議論政策ニ至リテモ殆ンド章ヲナスモノヲ見ザリシナリ、然レモ第十六世紀即チ中古ノ一轉シテ近世ニ入ルノ時ニ方リテハ、大ニ從來ノ面目ヲ改メ、財政ハ長足ノ進歩ヲナシ、財政論ハ漸ク科學ヲナスノ曙光ヲ兆サスニ至リス、

第二 第十六世紀ノ財政論

財政ニ關スル議論ハ第十六世紀ニ至リテ著大ナル進歩ヲナセリ、之等ノ主因トシ

テ見ルベキモノ大約ソ左ノ如シ、

(一) 國家組織ノ變遷

歐羅巴大陸ニ在リテ君主專政ヲ治ノ確設セラレタルハ實ニ第十六世紀ニ在リトス、蓋シ之レヨリ以前ノ國家ニ在リテハ政治ハ所謂族長政治ニシテ國家ノ權力ハ四方ニ分散シ、王室ノ權力頗ル微弱ナリシ、從ツテ國家ノ財政ハ其實殆ンド等族ノ財政タルヲ免レザリシナリ、然ルニ其狀態ハ一變シ君權盛ンナルニ及ビ等族ノ橫行其跡ヲ潜ムルニ至リテ、國家トシテノ經費漸ク増大シ、國家財政ノ端緒此ニ啓カル、コトナリタリ、且ツ當時ノ帝王ハ勢ヒ在來ノ等族ヲ牽制スルノ必要ニ迫ラレ、王室ノ式微ヲ挽回スルノ念急ナルモノアリシガ爲メ、務メテ其權力ノ收攬ニ從事シ、之レニヨリテ財政ノ問題ハ次第ニ其範圍ヲ擴張スルニ至レリ、

(二) 軍制ノ改革

昔時ニ在リテハ軍隊ノ制度ハ極メテ不規律ニシテ、一旦緩急アルニ方リテ劍ヲ把リ馬ニ跨ルモノハ平時必シモ兵卒トシテ存在スルモノニ非ザリキ、歐羅巴ニ

在リテモ吾封建制度ノ武士ニ於ケルガ如ク、戰時ノ將校卒ハ即チ所謂武士ナリキ、然ラズンバ、傭兵ト稱シ戰爭ニ際リテ雇傭スルモノナリキ、佛國ノアラバソ
 ンナルモノ、如キ即チ是レナリ、然ルニ第十六世紀ニ至リテ武士制ノ軍隊ハ一
 轉シテ常備軍ノ制度トナレリ、從ツテ常備軍ヲ支持スル爲メニ巨額ノ經費ヲ要
 スルニ至リ、之レト同時ニ此支出ヲ償フベキ財源ノ發見必要トナリ、次イテ財政
 ノ討究盛ンナラザルヲ得ザルトナル、蓋シ常備軍ノ設置ハ財政ノ沿革ニ於テ
 頗ル著大ナル關係ヲ有スルモノニシテ、獨リ此時代ノ財政論ヲ喚起セシノミナ
 ラズ、延イテ今日及ビ將來ニ亘リテ永ク財政上學者ノ頭腦ヲ煩ハスニ至レルモ
 ノトス、

(三) 經濟社會ニ顯著ナル變動ヲ生シタルコト、

第十六世紀以前ノ經濟社會ト以後ノ經濟社會トハ殆ンド隔世ノ感アラシム、而
 シテ如此キ著大ナル變動ヲ來シタル主因ハ貨幣ノ鑄造盛ンニ行ハレタルニ在
 リ、蓋シ第十六世紀以前ノ社會ニ在リテハ社會經濟ノ狀態ハ實物經濟ニシテ貨
 幣經濟ニ非ザリキ、是ヲ以テ人民ノ取引ハ交換ノ意ニシテ賣買ニアラズ、從ツテ

國家ノ收入モ支出モ物品ヲ以テシ、其計算ノ繁雜ナルハ名狀ス可ラザルモノア
 リシナリ、想フニ出納上ノ計算今日ノ所謂會計ナルモノハ、到底實物經濟ノ下ニ
 在リテ行ハレ得ベキニ非ラザルナリ、然ルニ貨幣ノ使用遍行セラル、ニ追ンテ
 始メテ財政ハ整頓スルコトヲ得、秩序正シキ出納ヲナスコトヲ得ルニ及ベリ、
 如此ク第十六世紀ノ經濟ガ貨幣經濟ニ變ズルト共ニ、經濟學者政治家ノ頭腦ヲ
 煩ス問題津々トシテ湧出セリ、或ハ銀鑛ノ發見トナリ、貨幣ノ下落トナリ、重金學
 派ノ崛起トナリ、助長干渉政略ノ施行トナリ、國家ノ經費ハ又々頓ミニ一層ノ増
 加ヲ來タシ、財政ハ漸次複雜トナレリ、

(四) 稅制ノ發達

租稅制度ノ發達史ヲ編マントセバ須ラク英國ニ於ケル工業革命ヲ起點トシ、其
 前後ニ溯下シテ之レヲ叙セザルベカラズ、然レモ第十六世紀ノ租稅制度ト之レ
 ヲリ以前ノ稅制トヲ較照スルキハ又々尠ナカラサル徑庭ヲ見ルナリ、蓋シ中古
 ノ租稅ト稱スルモノハ、橋賃、入市稅、如キ地方的ノモノニシテ所謂今日ノ地租
 ナルモノモ當時ニ在リテハ地主即チ族長ニ支拂フ借地料ノ性質ヲ負ヒタルモ

ノナリキ、其他家族税ファミリータックス及ヒ日耳曼ノ釐金税ノ如キニ過ギズ、而シテ大部分ノ收入ハ諸侯ノ所有財産ヨリ生ズル收入人民ノ献金ノ類ニ外ナラザリキ然ルニ中央集權ノ時世トナルニ迨ンデ、税制ニ尤モ顯著ナル變動ヲ與ヘシモノハ實ニ租税制度ノ漸ク全國ヲ通シテ劃一セラル、ニ至リシト是レナリ、故ニ入市税ノ如キハ尙ホ今日ニ至ル迄續存スレモ、國內政治的境界ノ撤セラル、ニ至リテ強チ重要ナラザル財源トナリ、之レニ代リテ國王ノ特權ニヨル收入其他分頭税等ノ制度漸ク擴展シ、直税間税ノ觀念モ次第ニ發達スルニ及ベリ、

(五) 學理的研究ノ振作

第十六世紀ニ至リテ諸般ノ制度文物進步スルニ伴ヒ、教育制度モ亦タ發達シ次イデ學理的研究ヲ促ガスニ至レリ、英國ニ於テホツプス、ベツチー、ロツク等ノ輩出セルハ正ニ此時ナリシ、又タ第十六世紀ノ初葉ヨリ末葉ニ亘リテ佛國ニハツヤン、ポイダンノ出ヅルアリ、或ハクレゴリアス、スローザナスノ起ルアリ、或ハ伊太利ニギオヴァニス、ポテロノ生ル、アリ、皆ナ相提シテ財政ニ關スル卓拔ノ論文ヲ公ニシ、而シテ之等ノ士ニヨリテ財政ノ學理ハ漸ク世人ノ注意ヲ惹起スル

ニ及ベリ、

第三、第十七世紀及第十八世紀中葉ニ至ル迄ノ財政論

第十七世紀ヨリ第十八世紀ニ亘リテ、獨逸ニ官房學カンプトワイクゼンシャフトノ研究盛ニ起リヌ、官房學トハ王室ニ關スル事項ヲ討究セルモノニシテ、君主ノ特占事業即チ食鹽專賣等ヨリ生ズル收入其他官有財産ノ管理等財務行政ニ涉ルコトモ亦タ其中、論究セラレタリ、之等ノ學問ヲ討究シテ著名ナルハホルニツ、ベゾルド等及ビセツケンドルフ、シュヌスチー、ゾンネンフェル等ナリ、特ニゾンチンフェルノ如キハ尤モ効績アル人ニシテ主トシテ租税ニ關スル事項ヲ考查シ又タ當時ノ學說ヲ蒐録シテ之レヲ論評セリ、

佛國ニ在テハモンテスキウ方法精理ニ於テ國家ノ財政ニ就キテ論述スル所アリ又タボキバルド、メロン、チユウトツン等アリテ盛ニ財政ヲ討議シ、以太利ノフロツキア始メテ租税論ノ著ヲ公ニス、
此他ロウ(蘇國)ハツチンソン等英國ニ出テ、殊ニロウハ公債ニ關シテ有名ナリ、然ルニ此處ニ第十七世紀ノ終ニ方リテ、佛國ニ秀出シタル一人ノ學者起レリ、ク

チハ即チ是レナリ、此著名ナル學者ニヨリテ重農學派ノ勃興ヲ效タシ、ツルゴ
 一、ツケル等相和シテ經濟學史上ニ有力ナル一新學說ヲ齎ラスニ至レリ、重農
 學派ハ土地ヲ以テ生産ノ基礎トナスモノニシテ、其財政學上ニ及ボセシ大ナル
 影響ハ地租單一制論ナリトス、此說ハ既ニ前述セルガ如ク土地ヲ以テ租稅負擔
 ノ歸著スル所ナリトスルモノニシテ百般ノ租稅ハ寧ロ最初ヨリ此負擔ノ歸著
 スル土地ニ課スルニ若カザルヲ論シ、傍ラ物價ノ騰貴ニヨリテ農民ハ又々負擔ヲ
 償フニ足ルノ利得ヲ收ムベシトイフニ在リ、而シテ此說ノ謬レルハ明カニシテ
 再ビ此ニ之レヲ贅スルノ要ナキヲ以テ之レヲ述ベズ、然レモ重農學派カ後代ニ
 遺セシ大ナル惠與ハ須ラク之レヲ銘記セザルベカラズ、其ハ重金學派等ノ助長
 干涉主義ヲ排シタルト、財政ト經濟學トガ姑ラクモ相離ルベカラザル密接ノ關
 係ヲ有スルヲ證シタルトニ在リ、而シテ尙ホ更ニ一大効績ヲ附加シ得ベシト
 セバ、其ハ經濟學ノ鼻祖アダムスミスノ出現ヲ促ガスニ至レリシコト是レナリ、

第四 第十八世紀末葉ノ財政論

財政學ハ一方ニ於テ佛國獨國ニ於ケル哲學政治學ノ進歩ヲ受ケ他方ニ重農學

派ノ勃興アダムスミスノ富國策及ヒ佛國革命ノ影響ニヨリテ今世紀ニ至リテ
 著大ナル進歩ヲナスニ至レリ、故ニ第十八世紀末葉ノ財政論ハ今世紀ノ財政學
 ニ貢獻スル所甚ダ大ナリト謂ハザルベカラズ、

アダムスミスハ曾テ其佛國漫遊ノ際親シク佛國ノ稅制ヲ視察シ、大ニ感ズル所
 アリ、是ヲ以テ彼レノ財政特ニ租稅論ノ如キハ頗ル財政學ノ發達ニ貢獻スル所
 アルニ至レリ、租稅ハ國民ノ財力ニ應ゼシメザルベカラズトハ實ニ彼レニヨリ
 始メテ唱道セラレタル格言ナリトス、其他彼レノ富國策ニ於テ從來ノ財政論ト
 ハ全ク異リタル一新生面ヲ開キ財政ト國民經濟ト離ス可ラザルノ主旨ヲ陳述
 セル等財政學ニ加ヘタル効績ハ頗ル顯著ナリキ、

然レモ財政學チ一個ノ科學トシテ研究スルニ至リシハ獨逸經濟學者ノ功ニシ
 テスミスニハ非ザリシナリ、是レ惟フニ財政學ノ如キ國家經濟ノ問題ヲ攻究ス
 ルハ個人主義ノ經濟學者ガ爲シ能フ所ニ非レバナリシナルベシ、故ニリカルド、
 マルサス、ミル、フホウセツト、其他スミス學派ニ屬スルモノハ、能ク公債ヲ論シ租
 稅ヲ說キ或ハ特占事業ノ不可ヲ論シ、或ハ直稅間稅ノ比較ヲ試ミ、斯學ノ進歩ニ

貢獻スル所アリシモ皆ナ議論片々トシテ一統セル財政ノ原理ニ及バザリシモノナリ、

然レモ英國經濟學者特ニ自由學派ト稱スルスミス一派ノ學者ハ恰カモ財政上ノ材料ヲ供シタルガ如キモノニシテ假令一統ノ原理原則ヲ述ベザリシニモセヨ、財政ニ關スル各事項ノ原理原則ハ略々此時ヲ以テ整頓シ來レリトイフベシ、

第五、第十九世紀ノ財政學

財政學ガ始メテ一科獨立ノ科學トナリタルハ第十九世紀ニシテ其之レヲ科學ト爲シタルモノハ實ニ獨逸ノ經濟學者ナリトス、而シテ直接ニ財政學ヲ科學ノ地位ニ誘導シタル原因ト思ハルベキモノニ大凡ソ二箇アリ、

(一) 諸他科學ノ發達

今世紀ニ至リテ政治學國法學ノ進歩ヲ效タシ、ヨリ、國家ノ權力國民ノ地位等ハ漸ク明瞭ニ説明セラレ從ツテ財政ノ觀念ニ較著ナル發達ヲ齎ラスニ至レリ、

其他統計學經濟學ハ勿論歷史學社會學哲學ノ如キモ財政ノ科學的研究ニ莫

大ノ効益ヲ加ヘタリ、

(二) 憲法政治ノ設立

今世紀ニ至リテ諸國立憲政體ヲ舉クルニ及ンテ財政ニ關スル事項ハ國民自ラ討議スル所トナリ、是レガ爲メニ財政問題ヲ攻究スルノ必要ヲ促シ從ツテ財政上ノ新原理新原則ヲ發見スルヲ夥シキニ至レリ、

而シテ更ニ之レヲ詳説スルルハ先ヅ前世紀ニ在リテスミス派ノ眼中ニ映セル國家ノ觀念ガ今世紀ニ至リテ全ク一轉スルニ至リシト是レナリ、蓋シ英國自由學派ノ如キハ實ニ國家ヲ以テ人民ノ爲メニ存スルモノニ外ナラズトシタルモノニシテ所謂個人主義ノ思想專ラ經濟ノ原理ヲ左右シ其餘波延イテ財政ニ及ベルナリ、是ヲ以テ政府ノ助長干涉ヲ排シ代フルニ自由放任ノ政策ヲ以テシ、一般ノ政治ノ基礎ヲ一ツニ個人ニ執ラントスルノ傾向ヲ有シタリ、然ルニ今世紀ニ至リテ國民ハ全ク國家ノ爲メニ存在ストノ思想發達シ、國家ハ實ニ人民ノ集合體ニ非ズシテ又實ニ獨立ノ人格者ナリトノ觀念ヲ生ゼリ、是ニ於テ自由放任ノ政策ハ一變シテ干涉助長ノ政治トナレリ、然レモ今世紀ノ干涉政略ヲ以テ彼重

金學派等ノ主張セシモノト同一ナリト思ハ、是レ大ナル誤謬ナリ、今日ノ干涉主義ハ英國自由學派ノ放任主義長所ヲモ參酌シ、國民大多數ノ福利ヲ増進セシガ爲メニ國家ノ權力ヲ行使セント欲スルモノナレバナリ、而シテ此新派經濟學ノ勃興ハ實ニ獨逸ニ於テシ、普通之ヲ歷史學派ト稱ス、蓋シ如此ク國家ヲ基本トスル經濟學ノ獨逸ニ起リシハ理由アルコトナリ、何者諸多ノ科學特ニ國法學政治學ノ進歩ハ尤モ此地ニ著シカリシヲ以テナリ、即チ遠クヘーゲルノ哲學ニ於テ初メテ國家主義ノ顯出スルト共ニ漸ク國家主義ハ日耳曼ノ社會ニ浸潤シ、スタイン等ノ政治學者亦タ盛ンニ之レヲ鼓吹シタレバナリ、而シテ此如キ學說ノ影響餘波ハ又タ實ニ經濟學ニ及ビタルモノニシテ、所謂國家社會主義ヲ主張スル講壇社會黨ヲ胚胎シ、財政觀念ニ著シキ變化ヲ與フルニ至リシナリ、

國家社會主義若クハ社會政策ノ財政學上ニ及ボシタル効果ノ大ナルモノハ實ニ國家ヲシテ富ノ分配ニ關シ公平ナル結果ヲ齎ラサシムル職分アリトナスモノニシテ、財政ノ如キ人民ノ所得ニ影響スルモノハ宜ロシク之レヲ方便トシテ貧富間ノ懸隔ヲ匡正スルノ用ニ供セントスルニ在リ、

是ニ於テ彼等ハ英國經濟學者ノ自由放任主義ヲ以テ満足セズ、國家ハ更ニ人民ニ向ツテ保助干渉ヲ與フルノ義務アリトナセリ、蓋シ自由放任主義ニ一任ストセバ富者ハ増々富ミ之ニ反シテ貧者ハ愈々貧シキノ結果ヲ生ズルニ至ルヲ恐ルレバナリ、是ニ於テ彼等ハ租稅ノ稅率ニ關シ人民所得ノ多寡ニ由リテ累進的賦課法ヲ立ツベキコトヲ主張シ、國債ノ募集ニ關シ額面ヲ大ナラシメ以テ富者ヲシテ應募セシムルノ傾向ヲ獎勵シ、財產ノ官有ヲ論シ特占事業ノ漸ク昌ンナルヲ希望セリ、且ツ國家ノ支出モ須ラク干渉助長ノ政策ヲ執行スルガ爲メニ増進スベキヲ妨ゲザルモノニシテ、一言之レヲ蔽ヘバ富ノ分配ヲシテ公平ナラシムル職分ヲ盡クシ最大多數ノ幸福ヲ増進スルニ銳意ナルハ又タ財政上國家當然ノ任務ナリトイフニ在リ、

是等ノ學者ハ實ニ主義ニ於テ財政學上ノ新生面ヲ開キシノミナラズ、又タ財政ヲ一科獨立ノ科學トナシ且ツ財政學ノ範圍ヲ擴充スルニ至ラシメタルモノナリ、即チ從來國家法制上ノ進歩著シカラザル時代ニ在リテハ財政論ハ殆ンド全ク政府財政ノ事項ヲ討究スルニ止マリシモ、第十九世紀ノ憲法政治ト共ニ人民

參政權ヲ得、汎ロク全國ニ亘リテ自治制ヲモ認メラレシテ以テ地方ノ財政モ亦
 タ之ヲ度外ニ措クベキニ非ザルヲ感ズルニ至レリ、加之年ト共ニ地方團體ノ
 發達ハ更ラニ國家ノ進歩ヨリモ迅速ナルモノアリ、且ツ地方團體所屬ノ人民ハ
 又タ必ズ國家ノ臣民ナルヲ以テ經費ノ支辨ニ關スル方法ニツキテモ須ラク國
 家ハ常ニ自治體ニ關聯シテ之レヲ行ハザルベカラザルモノナルヲ唱道シ、地方
 財政學ノ必要ヲ道破スルニ至レリ、

此他交通ノ發展國際修交ノ擴張ト共ニ國家ハ外ニ對シテ汎ロク全社會ノ一員
 タルヲ知ルニ及ンデ、租稅ノ重課ヲ避クヘキヲ若クハ外債ノ募集其他特ニ保
 護政策等ノ事ニ關シテ大ニ議論ヲ新タニシ、又タ在來ノ學說ニ加フル所ノモノ
 大ナルニ及ベリ、

如此キ社會政策派ノ學者中著名ナルハマルクス、コンラッドシユモレル、シエ、フ
 ル、ノイマン、コーンワグネル等ニシテ、就中ワグネルハ財政學ヲ大成シタル偉功
 ヲ有スルモノトイフヘシ、

此他財政學理ノ進歩ニ貢獻シタル者伊太利ニコツサアリ、佛國ニボリウアリ、勿

論ボリユ一ノ如キハ國家社會主義ノ學者トシテ觀ルヘキニ非ザレド、財政學ノ
 發達ニ關シテハ獨逸學者以外ニ在リテ恐ラク彼レノ右ニ出ヅル者ハアラザル
 ベキナリ、

第六、結論

遠クゼノフホニアリス、トイテレスノ財政論ヨリアダム、スミス、ワエルスオフキレオン國富論トナリ
 途ニアドルフ、ワグネルフイナツツワイヒンシヤフトノ財政學トナル、顧ミレバ閱歷數千載ニシテ財政學ハ始
 メテ科學タルノ地位ヲ得タルモノト云フヘシ、然リト雖、今日ノ財政學ハ未ダ完
 全ナル科學ニ非ズシテ尙ホ駁々トシテ進歩ノ途上ニ立テルモノト謂フベキナ
 リ、世ノ學者中或ハ財政學ハ科學ニ非ズ方術ナリト云フモノ亦タ今日ノ財政學
 ニ於テ多少ノ知言ナルニ似タルモノアリ、何者財政學ハ實ニ國家ノ實務ニ負フ
 所頗ル大ナルモノアルヲ以テナリ、然レドモ更ニ思フルハ各國法制漸ク一ニ歸
 シ、縱令政體ニ區別アルモ憲法政治ハ今ヤ滔々トシテ宇內國家政治ノ軌樣ヲ成
 スヲ以テ諸國ノ財政モ從ツテ劃一トナリ、財政ノ原理原則ハ益々東西ニ亘リテ
 戻ラザルニ至ルベキヤ必セリ、

加之方今諸國ニ於テ尤モ大ナル國家問題ト稱スルモノハ實ニ外交ト財政トノ外ニ出デズ、是ヲ以テ財政ハ國民ノ注意ヲ喚起シ、財政ノ研究ハ各國ニ於テ次第ニ盛ンナラザルヲ得ザルニ至ルベク、其結果斯學ハ漸ク幼稚ノ境遇ヲ離レ成熟ノ域ニ入ルヤ知ルベキノミ、

夫レ既ニ財政ノ發達ハ一方ニ教育ノ振張寧ロ直接ニ國民ノ討究ニ待チ、他方ニ國家實務ノ状態ニ由ルベシトセバ、財政ノ問題頻起スル國家ニ在リテ斯學ノ尤モ多ク進歩スルハ蓋シ多言ヲ須ヒザルモノアルベシ、果シテ然ラバ吾人ハ我日本ノ如キ國情ニ在リテ財政學ノ進歩著シカルベキヲ想像セザル能ハズ、

試ミニ看ヨ、我日本ガ封建ノ制ヲ打破シ、更ラニ幾モナクシテ立憲國ノ班ニ列シテヨリ、國家財政ハ著ルシク面目ヲ刷新シ、經費ハ愕クベキ趨勢ヲ以テ増進シ來リ、收入ノ方途ヲ講ズルノ要ハ甚シク切迫スルニ至レリ、然ルテ況ンヤ日清戰爭ノ終局ト共ニ既ニ増進シ來レル國家ノ支出ハ更ラニ幾倍ノ増加ヲ生シ、財政問題ノ研究ハ日ヲ逐ヒ月ヲ逐ヒテ盛ンナルモノアルオヤ、想フニ將來愈々政府ノ助長干涉政策ヲ張ルノ日ニ及ンジハ更ニ財政ノ問題ハ一層ノ注意ヲ人民ニ與

フルニ至ルベクシカ、

現今伊太利ニ於テ財政學ノ發達著大ナルモノアルハ人ノ洽ク知ル所ナリ、而シテ其主要ナル原因ハ實ニ同國財政ノ困難ニ基ストセザルベカラズ、然ラバ財政學ガ財政上ノ問題頻起スルノ地ニ振作セラレ進歩スルノ疑ナキヲ見ルベシ、夫レ然リ日本ノ如キ何ソソ竟ニ斯學ニ貢獻スル所ナキヲ得ンヤ、

財政學終

帝國百科全書

<p>農學博士 井上正賀著</p> <h2>日用化學</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔本書は化學の深遠微妙を以て之を日常生活の作用に應處する是れ化學の特色なり、即ち空、水、動植物、嗜好品、日用品、織物、紙、食料等に涉りて、説明解明、讀者の實惠のみならず、世人一般に必要すべき實験學理なり。〕</p>	<p>農學博士 木道義著</p> <h2>肥料學</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔本書は學理の方面より又實地經濟の方面より全編を通じて、天然肥料の如き先人未言の條項多し、肥料書として世未だ如斯なものある如き志士必讀の要書なり。〕</p>	<p>農學博士 楠巖著</p> <h2>農産製造學</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔本書は新學に精通する著者が幾箇月の苦心を重ね、其製法及び生産の性質を初めとして、新製法の巨細を知らしめ、更に製造業者の最好指針といふべし。〕</p>	<p>農學博士 乙丙著</p> <h2>植物營養論</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔種々の植物の先づ植物生育の理に通せざる可からず、就中植物の營養の法則に至つては、大に研究するべからず、本論に植物の化學的組成を明かにし、次に其解剖の構造を説き、之を營養の法則及び最も詳細に究む實に農學の實用といふべし。〕</p>	<p>農學博士 恩田鐵彌著</p> <h2>農學汎論</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔本書は本邦農業の神髓たる稲作を基とし、日常目撃する所の農業現象を究めて、平易に稲作を基とし、日常目撃する所の農業の心得を添へたり。〕</p>	<p>農學博士 時横井著</p> <h2>栽培汎論</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔栽培學は實に學理と實地との聯絡を通ずるの橋梁なり、學者も究めんと欲し、實地家も學問を極め、本邦未だ此種の著書なき積弊を博士が極力是を極め、本邦の爲めに此著あり。〕</p>	<p>理學士 林鶴一著</p> <h2>新撰幾何學</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔本書は筆をユークリッドが幾何學に起して、以て其狀貌を知り、非ユークリッドの研究に從ふて、説述殆んど徹極めたる要書。〕</p>
---	--	--	--	---	---	--

帝國百科全書

<p>文學士 高山次郎著</p> <h2>再論 理學</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔本書は著者が往年第二高等學校に教授たりし際、撰述したる「理學」の序論を、近年の科學發展を以て、其内容を刷新し、是れ著者が自ら撰述し、其論の精蘊を發揮し、其所以たるを得んとす。是れ著者が自ら撰述し、其論の精蘊を發揮し、其所以たるを得んとす。〕</p>	<p>文藝學士 江丸譯</p> <h2>倫理學</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔新學に關する者少ならず、多きは陳腐に流れて、濶濶に失つて、其に正論を得たるものなれば、著者は是を見りて、爾來、派を調和し、パウレン氏の著書に執つて、是を譯述す、其文明快以て、歐洲新學の趨勢を卜知し得べし。〕</p>	<p>理學士 佐藤傳藏著</p> <h2>再版 日本新地理</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔天然地理、人事地理、地方誌の三項、最新の事實により、正確の統計を北海道に巧み、統計の組織、簡潔にして、餘蘊なし、彼の教育科用書として、無比唯一の新地理書なり。〕</p>	<p>理學士 佐藤傳藏著</p> <h2>萬國新地理</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔本書は新地理の要領を語らん爲め、最新の統計、事實、往來の學生に、向つて、中等教育の所、向つて、地理專家の向つて、普通の學生に、向つて、大に告ぐるに併せて、机上に備ふべし。〕</p>	<p>理學士 佐藤傳藏著</p> <h2>地質學</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔山嶽の隆起、ゆるり、所以、礦物、岩石の生ずる所以、其由來、構造等を、詳説し、地質學の本質を極めんとす、其の必す本書を讀むべし。〕</p>	<p>理學士 高木貞治著</p> <h2>新撰算術</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔世に算術書多し、皆翻譯ならざれば、單に機械的に説明する者、其に過ぎたり、本書は然らず、筆を算術に起して、無理解、立論共に、精確にして、理論、算術に、徹極めたる要書。〕</p>	<p>理學士 高木貞治著</p> <h2>新撰代數學</h2> <p>冊壹全</p> <p>〔本書は正數の觀念、並に四則算法を支配する根原的法則を、數の即ち算の代數學の原則として、新研究の地を成さんとす、其の整數の有理分解、其代數學の原則として、新研究の地を成さんとす、其の整數の有理分解、其代數學の原則として、新研究の地を成さんとす。〕</p>
---	---	--	---	---	---	---

帝國百科全書

林學士 貞衛田

森林學

冊壹全

本書は多年森林の學を修め學理と實踐に熟し具に營林の方利なる且つ林業の大なる發展の歴史を引き如何に營林の有利なるやを説き以て森林思想の觀念を喚起せる等町

法學士 熊太谷

法律汎論

冊壹全

職業の如何を問はす安全に國民生活を爲さん欲せば法律の如何なるにせざる可らず、本書は此目的を達するに於て最も適當なる主要なる法律の概観を詳解せられたり

法學士 長渡山

法理學

冊壹全

法理學の目的は法律現象に關する通素を講究するにありて其の或るに至るに於て我國の法理に關するもの多く外國の法理に依りて法理の何者たるを詳説せり蓋し斯學唯一の要書といふべし

法學士 北谷元熊

國際公法

冊壹全

これは國際上の條規を定むるものなり、我國は已に世界の巨なる公法を以て傲の法理を發揮するものなり

法學士 中村太

國際私法

冊壹全

内地雜居目眩の間に逼る彼我法律内外交渉の生起亦昔日の比にあらす、今にして之を研究する急務といふべし本書は此問題を捉へて説明すること可なり

法學士 梶原

民事訴訟法釋義

冊壹全

訴訟の勝敗は手續に通ずるに否に關するに大なり、本書は之を以て年々新學の研究に委身し其規定の所を簡明に解説して知るべし、説き去りて世間未だ之を知らざるなり

法學士 上田豊

民法釋義

冊壹全

民法中吾人に最も切なるものを親族編と爲す、而して此二編は本書に於て解説せらるる者多年研究以て法律の眞意と立法の精神とを兩々發揮せられて紙上に躍如たり、民法保護を要する上須く一本を備ふべし

帝國百科全書

(次目刊續編十五第至編三卅第自)

法學士 一添田

商法汎論

冊壹全

商業に従事する者は詳かに商法の規定を知らざるべからず、本書は從事者新商法に就て其大體の法理を立法の趣旨から基礎として最も簡明に論述したるものなり、各人先づ之を見れば商法の條文を逐ふの煩勞なく商法の精神に通曉するを得べきなり

法學士 森九尾

民法釋義

冊壹全

總則篇は民法全篇に通ずるの大則を定め、物權篇は吾人の總則篇の權利の得喪變更に關する事定む、其重要なるものを知るべきなり、今此書に就て説明すると町學切、而も繁冗に流れずして能く立法の精神を發揮する處、解釋の巧妙を見る

法學士 森九尾

民法債權編

冊壹全

法學士 九尾昌雄著

法學士 清水泰吉

商業經濟學

冊壹全

法學士 九尾昌雄著

文學士 高山林次郎

十九世紀文明史

冊壹全

文學士 吉國藤吉著

農學士 田口晋吉

畜産各論

冊壹全

文學士 藤井健次郎著

文學士 蟹江義丸

西洋哲學史

冊壹全

文學士 中野禮四郎著

農學士 新島善道

森林保護學

冊壹全

農學士 井上正賀著

文學士 吉國藤吉

西洋歷史

冊壹全

文學士 幸田成友著

農學士 西村榮十郎

農用器具學

冊壹全

農學士 高見長恒著

文學士 藤井健次郎

哲學汎論

冊壹全

文學士 熊谷五郎著

約 豫

豫約大出版廣告
增訂七版

本館は明治元年より今明治三十二年五月に至る三十二年間に於ける法令は、法律と命令とを問はず、訓令告示に論なく、其必要なるものは添付之を網羅したり故に其内容の豊富なるは、他の書に超越せること公言するに憚らず、次に目録には總目次あり、別目次あり、編年目次あり、いはば別索引あり、殊に「は別索引」に於ては、編者考出の努力を以て、索引抽出の便利を計り、たれば、覽者は、所定の法令を捜るに於て、物を正確に檢ぐる、同一の事柄を感ぜんとする、之れを本書の二大特色と爲す、又編者は、多年此事に経験ある者、之に當り、印は、斯業に名高き考案、之に當る、故に序次整齊、校正嚴密にして、印刷は極めて鮮明なり、之を本書の異彩と爲す、若し夫れ、本書の堅牢と價格の低廉なること、至つては、本館特有の長所、之を言はず、實に國民の片時も不可缺要典也

内閣總理大臣侯爵山縣有朋君題字
博文館編輯局編纂

司法大臣 清浦奎吾君序文

現行日本法令大全

全壹冊背皮金字入
紙數二千四百頁
印刷鮮明堅牢製本
正價金二圓五拾錢

豫約法
三十二年六月三十日迄
送金二圓便爲替は「東京郵便電信局」へ取組の事
送本七月一日より着金順序に送本す

▲豫約期限三十二年六月三十日迄 ▲申込期限後必ず正價に復す
▲送金二圓便爲替は「東京郵便電信局」へ取組の事 ▲郵券代用は一割増
▲送本七月一日より着金順序に送本す

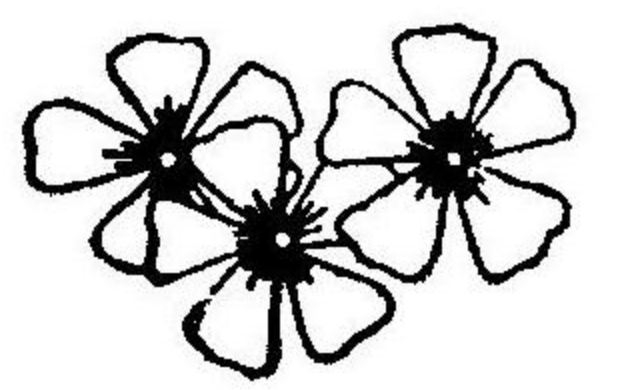
三十二年六月三十日 金 貳圓

送金 十圓マデ 金九錢
百圓マデ 金拾六錢
百圓外 金廿二錢

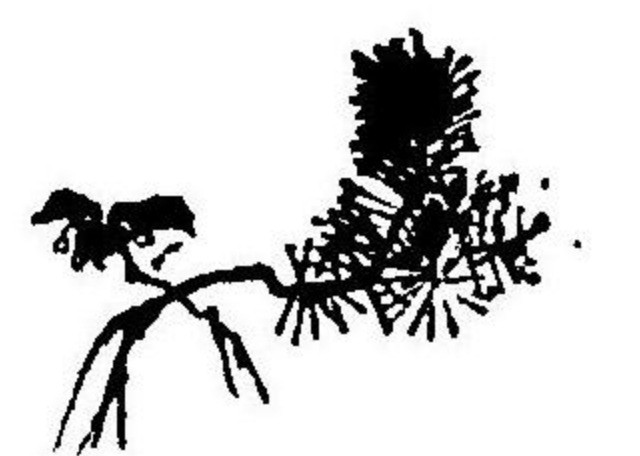
出 版

帝國百科全書第五拾編以下概目

世界文學史	上田文學士著
日本文學史	大町文學士著
支那文學史	白川文學士著
邦語逸文	大町文學士著
邦語佛文	青木文學士著
邦語佛文	松井文學士著
邦語佛文	藤岡文學士著
邦語佛文	岡田文學士著
邦語佛文	下田文學士著
邦語佛文	高山文學士著
邦語佛文	島崎文學士著
邦語佛文	松本文學士著
邦語佛文	廣田文學士著
邦語佛文	喜田文學士著
邦語佛文	三浦文學士著



銀行論	野口法學士著
政治論	清水法學士著
經濟論	池田法學士著
行政論	島田法學士著
刑法論	添田法學士著
民法論	三井法學士著
刑法論	丸尾法學士著
民法論	森山法學士著
刑法論	小橋法學士著
民法論	菅原法學士著
刑法論	矢部法學士著
民法論	永井法學士著
刑法論	鶴田法學士著
民法論	佐藤法學士著
刑法論	坪井法學士著
民法論	會田法學士著



植物學	飯沼理學士著
動物學	龜高理學士著
植物學	藤澤理學士著
動物學	佐々木理學士著
植物學	上野理學士著
動物學	田中理學士著
植物學	大森理學士著
動物學	横井理學士著
植物學	高橋理學士著
動物學	山路理學士著
植物學	大島理學士著
動物學	松永理學士著
植物學	宮道理學士著
動物學	村瀨理學士著
植物學	飯田理學士著



近刊法律書

法學士栗本勇之助著

(製本既成)

帝國商法釋義

全壹冊洋裝美本背皮金文字入

帝國商法の條文殆ど一千條に近く、各條皆な深遠の法理を包含し能く、之を運用し、各自の權利利益を失はざらんとするは容易の事にあらず、著者は多年專攻の學識を以て新商法に對し、逐條簡明平易に解釋説明し、以て法律思想なき者にも、一讀して其意義を解し運用を誤らざらしむ、近時同種の著書少なからずと雖、繁簡詳容其宜きを待、何人にも讀みて最も利益多きもの此書の如きは稀なり。

- 要目
- 緒論
 - 商の觀念
 - 商法の沿革
 - 日本商法の編纂の來歴
 - 第一編總則
 - 第二編會社
 - 第三編商行爲
 - 第四編手形
 - 第五編海商
 - 附錄破産法
- 正價金貳圓 郵稅拾八錢 (紙數大凡千)

日本郵船株式會社社員
法政大學野村平吉澤達

共同海損法

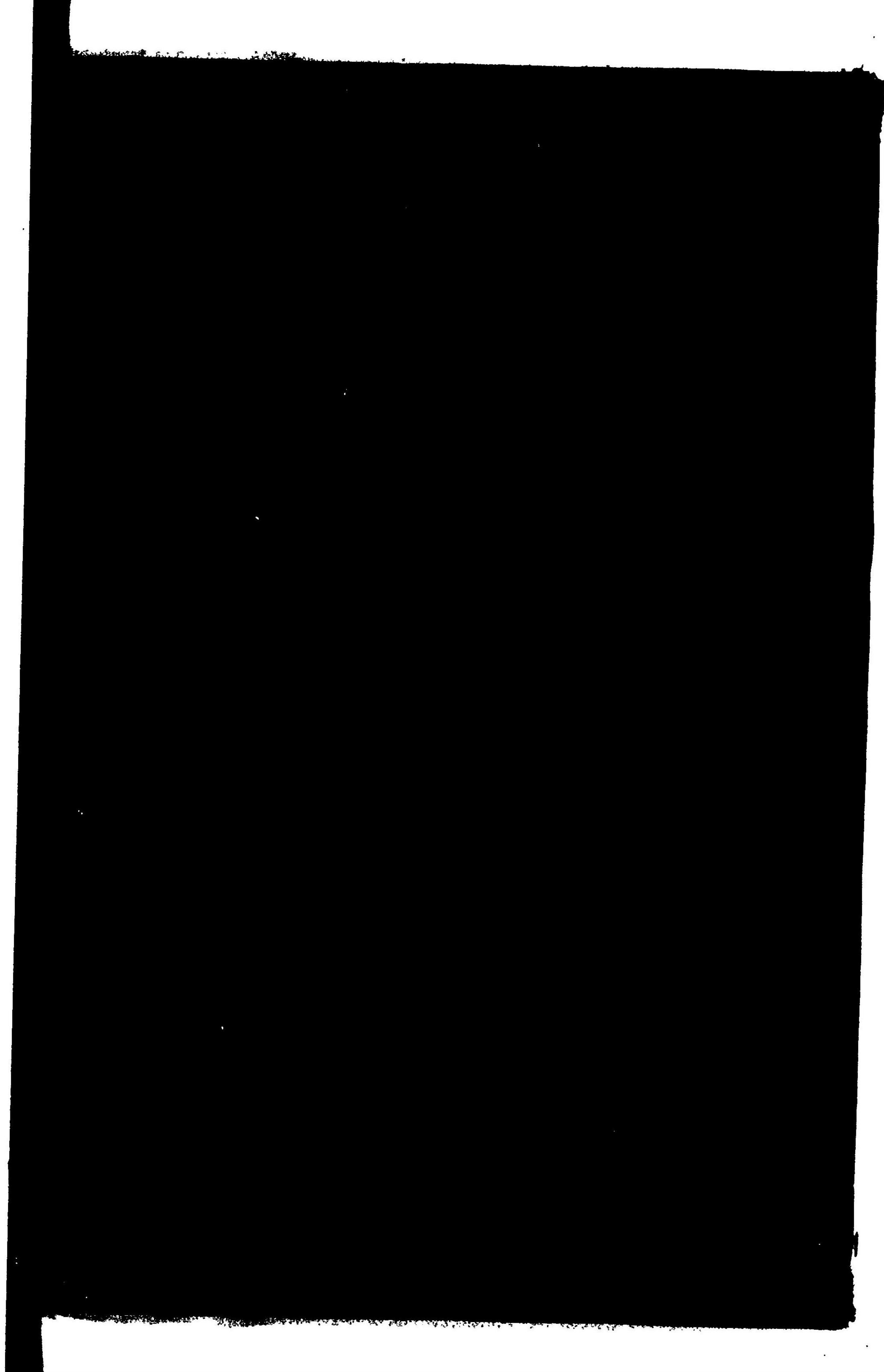
佛蘭西商法共同海損法
獨逸商法共同海損法
ヨークアンクトワーノ規則
日本商法共同海損法

緒言 定义及一般原則 ○共同海損 ○積荷ノ權利 ○非常經費 ○救助料 ○非常經費 ○共同海損ノ計算法 ○同時日場所事實 ○賠償額ノ計算法 (經費支拂ノ權) ○分擔ノ價值等

正價 金壹圓廿錢 郵稅拾錢
洋裝美本 (紙數六百廿餘頁)

博文館發行

78



040577-000-9

78-3

財政学

笹川 潔/著

M32.6

BDE-0204



